

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	記	コ	ア	採取率 (%)	最大コ	R	Q	D	L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ペット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)											
																				0	10	20	30	40												50										
		1.05	6.81	盛土	にぶい黄																																									
6																																														
7				花崗斑岩	にぶい橙				6.81~32.00m 花崗斑岩 斑晶は径2~10mmの石英と長石からなる。深度10.58m以上の長石は白濁化している。21.12m以上は所々、アプライトに近い岩相を呈する。 6.81~10.58m: 傾斜40~60°の割れ目と低密着割れ目が主体で、一部で、これらに斜交~直交する40~60°割れ目が分布する。割れ目の一部は風化で薄く砂状化する部分や、軟質な白色粘土を挟むものもある。 7.10m, 8.11m: 傾斜45~60°で幅0.5~2mmの白色軟質粘土脈を挟む。	Vg	IVg																																			
8									8.56m: 傾斜55°の割れ目沿いに幅2~3mmが淡緑色化し、微細な白雲母が晶出する。	Dg	Vg	cg	δ	2																																
9									8.89m: 傾斜55°の割れ目は幅1mm以下の不連続な白色軟質粘土を伴う。上部にはマンガン鉱染で黒色化した幅2mmの砂を伴う。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 9.06m: 傾斜52°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。石英脈が横断するカリ長石は石英脈を挟んでズレていない。粘土の塊は見られない。石英脈の周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 9.54~9.61m: 傾斜40°と60°の割れ目に挟まれた区間にマンガン汚染が顕著に見られる。 9.77m: 傾斜50°の割れ目に酸化汚染が見られる。	IVg																																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の形状	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平盤)	室内試験	掘進 掘進速度 (cm/時)	掘進 掘進日	コアチューブ ノズル ノット	給 回 送 水 圧 (kN・ rpm) (MPa)	送 水 量 (L/分)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)								
													0	10	20	30	40										50							
11			+			IVg			10.21m : 傾斜45°で幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して分布する。石英脈が横断する石英斑晶は石英脈を挟んでズレていない。粘土の挟は認められない。石英脈の周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 10.58~11.53m : 傾斜50~55°の割れ目が10~30mm間隔でほぼ平行に分布する。10.58~10.92mは風化で褐色化が強いが、劣化は伴わない。いずれも直線的でシャープな割れ目密集部である。一部、割れ目が石英斑晶を横断しているが、石英にズレは認められない。割れ目には挟在物が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	0																								
12			+			Dg	cg		11.53~11.67m : 全体が粘土化し、著しく軟質化するが、せん断面は分布しない。 11.67~11.95m : 傾斜10°と40°の割れ目が細かく分布し、径20~30mmに岩片化する。	0																								
			+			Eg	VIg	dg	11.95~12.13m : 割れ目沿いに幅1mmの軟質な灰白色粘土脈が多くなり、全体に軟質化が著しい。	0																								
			+			Dg	Vg	cg	●12.38~12.97m : 破砕部 (D-1断層) 12.38~12.86m : 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端60°、下端45°とともに直線的でシャープに連続。割れ目は殆んど消滅し、著しく軟質化した径10~30mの岩片からなる。岩片間に20~70μmの幅0.5~1mmの軟質な灰白~灰黄色粘土脈が分布する。全体にふい褐色を呈する。	0																								
			+			Eg	Vg	δ	12.86~12.87m : 粘土状部 (Ho-1) 傾斜45°で直線的にシャープに連続。径1mm前後の石英粒を少量含む。やや硬質。灰白~灰黄色を呈する。幅5mm	0																								
			+					cg	12.87~12.97m : 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端45°で直線的にシャープに、下端45°で不明瞭に連続。硬質。径5~20mmの岩片主体で、岩片間に幅0.5~1mmの粘土脈を少量含む。ふい黄褐色を呈する。幅75mm。	0																								
			+			Dg	IVg	2	12.97~16.24m : 上位に比べ割れ目は少ない。割れ目沿いに風化が進み砂状化を呈する部分を含む。粘土脈の分布は少ない。傾斜40~60°の割れ目が主体である。 13.15~13.46m : 傾斜10~20°の割れ目が多く、割れ目沿いは風化で砂状化~小岩片化し、一部でマンガン鉄染を受ける。 13.73~13.77m : 傾斜55~65°の割れ目が2~10mm間隔で平行に直線的にシャープに分布する。粘土化はないが、全体に軟質化する。幅1mm以下の灰白色粘土を挟む。 13.82~13.89m : 不規則な形状で褐色化する。 14.20m : 傾斜50°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して連続する。 14.32m : 傾斜45°の割れ目沿いに幅5~10mmが褐色化するが、粘土化などの劣化は伴わない。 14.87m・60°の割れ目は交差する80°の割れ目を止めており、14.97m・62°の割れ目は長石斑晶を横断する。両者ともズレは認められない。割れ目には挟在物が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	0																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化状態	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)										
														(N)	(m)																					
		16	花崗斑岩 に か い 橙			Dg	IVg		2	15.10m・65°の割れ目は長石斑晶を横断し、15.28m・55°の割れ目は石英斑晶を横断する。両者ともズレは認められない。また、これらの割れ目を横断する割れ目が見られる。両者とも挟持物は認められず、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 15.47m以深では、割れ目沿いに幅1~2mmで風化により褐色化する。				0	50																					
		17					Eg	Vg		3	16.24~17.06m: コア全体が著しく軟質化するが、17.46m以深では原岩組織と割れ目は残留する。割れ目の一部は、マンガン鉱染を受け、黒褐色化する。 16.54m: 傾斜50°の割れ目と交差する割れ目は止まっている。割れ目に挟持物は見られないが、幅1mm程度が風化で褐色に砂状化する。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																									
		18					Dg	VIg	dg	δ	17.05~17.30m: 径5~10mmの大型化した長石斑晶が多い。長石は全て粘土化で白濁化する。 17.46~17.66m: 径10~20mm前後に細片化する。 17.66~19.78m: 上位に比べて割れ目が少なくなり、傾斜30~60°の割れ目を主体とする。割れ目の一部は薄く砂状化したり、粘土脈を挟むものがある。																									
		19					Dg	IVg		2	18.10m: 傾斜40°の割れ目に幅1~2mのマンガンを含む。 18.21m: 傾斜58°の割れ目沿いに幅1~2mmが風化で褐色化し砂状を呈する。割れ目周辺に微細な白雲母が晶出する。 18.41m: 傾斜50°で幅1mmの白色粘土を挟む。 18.77m: 傾斜55°の割れ目は幅2mmの連続性に乏しい軟質な灰黄色粘土を挟む。この割れ目で止まっている割れ目と横断する割れ目が見られる。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 18.97m: 傾斜58°の割れ目沿いがマンガン鉱染で黒褐色化する。 19.01~19.21m: 風化残留部でやや硬質である。 19.23m及び19.30mの傾斜62°の割れ目沿いは幅2~15mmで砂状~細片状化する。若干の粘土も含む。この間、マンガン汚染により黒色化している。 19.57~19.61m: 傾斜50°、幅2.5mm程度で軟質化する。下層側は幅10mmでマンガン汚染が顕著に見られる。 ●19.78~19.87m: 破砕部 粘土混じり硬状部 (Hj) 上線53°、下線63°とともに直線的でシャープに連続する。径1~3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。やや硬質。浅黄褐色を呈する。幅10~50mmと膨縮する。 19.82mに幅1mm以下の灰白色粘土を直線的に挟持する。 19.87~20.59m: 傾斜60°の割れ目がほぼ平行に分布し、一部に幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を挟む。																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記号	岩級区分	孔内水位 / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水平試験)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
													(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図																		
		26	+							<p>25. 22~26. 84m: 一部の割れ目では、割れ目沿いに薄く軟質化するが、概ねやや硬質で割れ目は少ない。一部の割れ目には、幅0. 5~1mmの軟質な白色粘土脈を挟む。</p> <p>26. 67m: 傾斜55° の割れ目は交差する割れ目を止めている場合と横断する場合がある。幅1mmの連続性に乏しい軟質な白色粘土脈を挟む。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。</p> <p>26. 84~28. 73m: 互いに交差する傾斜40~60° の割れ目が主体である。上位に比べて割れ目が多い。割れ目の面は弱く風化する。やや硬質~やや軟質である。</p> <p>27. 30~27. 32m: 上下端60° の割れ目に幅0. 5~1mmの軟質な淡黄色粘土を挟み、全体に粘土化が進む。</p> <p>28. 42~28. 46m: 上端65°、下端55° の割れ目に囲まれて径5mm前後に細片化する。下端には幅2mmの風化で褐色化した軟質な粘土脈を伴い、幅5mm前後の淡緑色化が見られる。割れ目沿いに白雲母が晶出する。</p> <p>28. 73~30. 20m: やや硬質で、傾斜40~60° の割れ目が主体であるが、割れ目は少ない。風化は弱く、割れ目の面がごく薄く褐色化する程度で、砂状部は29. 05mの傾斜60° の割れ目に幅2mmで分布するのみである。緑色化が見られる。粘土脈や粘土化部は分布しない。</p> <p>29. 32~29. 33m: 傾斜30° 幅10~12mmで径2~5mmのかり長石、石英が脈状に分布する。</p> <p>29. 45m: 傾斜55° と60° の割れ目沿いはマンガン結染で径2~3mm程度の斑点状に黒色化する。</p>	0 50 100	0 10 20 30 40 50																				
		27											CL'																			
		28											CL'																			
		29											CM'																			
													CM'																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図					原位試験 (孔内水平剪断)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
															0	10	20	30	40												50								
		31	+	花崗斑岩	にぶい橙		IIIg	bg	γ	30.20~31.44m: 上位と同じ硬さで、割れ目は多くなる。互いに交差する傾斜30~60°の割れ目が分布する。粘土化部は分布せず、粘土脈は少ない。割れ目の一部は砂状化する。 2 30.68~30.75m: 上下端60°で幅2mmの軟質なにぶい黄褐色粘土を伴う割れ目に囲まれた区間は、割れ目に幅1mmの軟質な白色粘土を挟む。上端は緑色化する。 31.41~31.44m: 軟質化し、マンガン結染も受けるが、粘土化・粘土脈等は分布せず、変化は認められない。 ●31.44~31.46m: 破碎部 粘土状部 (Hc-1) 傾斜35°で直線的にシャープに連続。径1~2mmの石英粒を含む。軟質。灰白~にぶい黄橙~灰赤色を呈する。幅10~12mm。 31.46~33.00m: 割れ目が多くなり、傾斜30~60°の低密着割れ目が1~3cm程度の間隔で分布する。低密着割れ目の一部には幅0.5~2mmの軟質な白~灰赤色粘土脈を伴う。 31.70~31.80m: 傾斜30°で幅10mm程度のマンガン結染による黒褐色錆状部が分布する。 32.05~32.11m: マンガン汚染が顕著に見られる。	0	50	100	CM'																									
															IVg				18	CL'																			
															Cg				18	CL'																			
															IIIg																								
															IVg																								
															IIIg																								
		32	+	花崗斑岩	にぶい橙		Dg	Vg	γ	31.41~31.44m: 軟質化し、マンガン結染も受けるが、粘土化・粘土脈等は分布せず、変化は認められない。 ●31.44~31.46m: 破碎部 粘土状部 (Hc-1) 傾斜35°で直線的にシャープに連続。径1~2mmの石英粒を含む。軟質。灰白~にぶい黄橙~灰赤色を呈する。幅10~12mm。 31.46~33.00m: 割れ目が多くなり、傾斜30~60°の低密着割れ目が1~3cm程度の間隔で分布する。低密着割れ目の一部には幅0.5~2mmの軟質な白~灰赤色粘土脈を伴う。 31.70~31.80m: 傾斜30°で幅10mm程度のマンガン結染による黒褐色錆状部が分布する。 32.05~32.11m: マンガン汚染が顕著に見られる。	0	50	100	CL'																									
																			16	CL'																			
																			16	CL'																			
		21.63	33.00																																				

孔番 D1-2 孔

深度 0.00m ~ 18.00m

孔口標高 6.95m



孔番 D1-2 孔

深度 18.00m ~ 33.00m

孔口標高 6.95m



余白

H24-D1-4

余白

ボーリング柱状図

調査名 []
 事業・工事名 []

ボーリングNo.	1
----------	---

ボーリング名	H24-D1-4		調査位置	X:277.640, Y:897.400		北緯	35° 45' 12.77"	
発注機関	日本原子力発電株式会社			調査期間	2013年5月13日～2013年6月10日			
調査業者名	[]			主任技師	現代理人	コ定ア	ボーリング責任者	
孔口標高	6.95 m	角上		地盤勾配		使用機種	試錐機	
総掘削長	70.00 m	度下		鉛直		エンジン	ハンマー落下用具	

標尺 (m)	柱状図	岩種	色調	硬軟	コ割れ目	風変質	記 事	コア採取率 (%)	岩 級 区 分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値～深度) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)	
											標準貫入 (N値)	試験 (深度)											
0							0.00～7.62m: 盛土 0.00～0.32m: 粒径5～30mmの黒色砂岩からなる。	0															
1							0.32～2.94m: 凝混じり粗砂 径3～40mmの花崗岩。アブライトの垂角～歪円礫を含むルーズな粗砂からなり、径3～10mmの砂岩を多く含む。																
2																							
3							2.94～5.60m: 砂礫 径5～130mmの花崗岩。アブライトの垂角～歪円礫で、硬質なもの为主体。一部で半クサリ礫も含む。基質は中～粗砂でやや締まる。疎率は40～50%であるが、5.15m以降では径10mm前後の礫が主体である。																
4																							
							4.96～5.12m: 径10～60mmのコンクリート片を含む。																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
													(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)																		
				盛土	にぶい黄橙				5.60~7.62m: 礫混じり粗砂 上位に比べて礫量が減少する。上位よりルーズとなる。礫は径5~10mmの花崗斑岩の半クサリ礫が主体で、一部クサリ礫を含む。 6.00~6.45m: 径10mm前後の硬質な礫が主体となり、礫量が多い。礫率は50%程度で上下に比べて締まっている。 6.36~6.42m: 明赤灰色の軟質な粘土が不規則な形で分布する。透部ないし深部側への連続性はない。 7.00m以深では風化した半クサリ礫が多くなる。 7.40m以深は礫量が少ないルーズな花崗斑岩の粗砂からなる。																							
		1.56 7.62		花崗斑岩	にぶい橙	Dg IVg cg			7.62~17.89m: 花崗斑岩 径2~10mmの石英、長石の斑晶を5~15%程度含む。 7.62~9.26m: 原岩組織と割れ目は残留し、変質粘土化部や粘土脈は殆んど分布しない。傾斜30~60°の割れ目が主体で、一部で傾斜60~80°の割れ目が交差する。風化により割れ目沿いに数mm程度砂状~小細片化する。 8.78m・60°, 8.91m・65°の割れ目に幅0.5mmの軟質な白色粘土が断続的に付着する。 9.05~9.20m: 褐色化が顕著に見られる。 9.17~9.20m: 傾斜50°の消滅しかかった割れ目沿いに風化により褐色化するが、砂状~粘土状などの劣化はない。 9.21~9.43m: 緑色変質が顕著である。 9.26~9.38m: 全体に風化と変質で軟質化が著しい。9.26~9.32mと9.36~9.39mでは、粘土混じり岩片を呈し、径5~10mmの緑灰色化した岩片主体で、岩片間には幅1mm程度の軟質な泥い濁(上端側)~灰白色(下端側)の粘土脈が分布する。9.32~9.34mでは、傾斜45°で幅30mm程度が更に粘土化した礫質粘土で、径3~10mmの緑灰色化した粘土化岩片を多く含む。9.34~9.36m: 上端45°, 下端50°で断続的に連続する幅5~15mmの軟質な泥い赤褐色を呈する粘土脈を含む。9.38~10.76m: 全体にやや軟質で、一部は風化により著しく軟質化する。一部で消滅しかかっているが、大半の割れ目は残留し、傾斜30~70°の割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する20~40°の割れ目も分布する。後者の割れ目は前者の割れ目で止まっていることが多い。10.00m以深では、前者の割れ目に幅1~2mmの軟質な灰白~淡黄色粘土を挟み、一部にはマンガンを伴う。いずれの割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 9.43~9.50m: 褐色化が顕著に見られる。																							
					明黄褐	Eg VIg dg																										
					明褐灰	Dg Vg cg																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記号	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D	L [%]	標準貫入試験					原位試験 (孔内水平盤荷)	室内試験	掘進日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ペット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
														(N 値 ~ 深度) 図																			
						Dg	Vg	cg		0	50	100		0	10	20	30	40	50														
11				Eg	VIg	dg				10.76~10.88m: 上端35°で直線的にシャープに、下端30°で波打って連続。傾斜20~25°の割れ目一部に幅0.5~1mmの軟質~一部硬質な灰黄色粘土脈を挟み粘土混じり岩片状を呈する。にふい橙褐色を呈する。幅110mm。 10.88~10.91m: 上端30°、下端35°とともに連続的にシャープに連続する。径5~10mmの風化した軟質~粘土化した岩片を含む粘土質礫状部である。下端側の幅5mmは珪化で硬質化し、マンガンの鉄染により一部は黒褐色化する。全体ではにふい橙~黒褐色を呈する。幅20~30mm。 ●10.91~10.93m: 破砕部 (D-1破砕部) 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 上端35°、下端38°とともに直線的にシャープに連続する。径1~2mmの石英粒と粘土化した径3~5mmの岩片を若干含む。軟質。下端には石英粒、岩片を含まない軟質な幅1~2mmの灰白色粘土が連続する。全体は浅黄褐色を呈する。幅15~18mm。 10.93~11.22m: 粘土化部や粘土脈は殆んど分布しないが、全体に軟質化する。 11.22~11.65m: 傾斜50~70°の割れ目全体で、これに斜交~直交する20~50°の割れ目が一部に分布する。粘土脈は殆んど挟まれないが、割れ目沿いに砂状化する。 11.65~17.89m: 上位より割れ目が少なくなる。全体にやや軟質であるが、割れ目沿いの一部は風化により軟質化する。 12.60m: 傾斜45°で幅1~2mmの石英脈を挟み、境界は割れ目化する。割れ目とその周辺の幅10~20mmはマンガンの鉄染により黒褐色化する。 13.00~13.38m: 風化で砂状化が進む部分が多い。																							
12					IVg				δ 2																								
13					Dg																												
14							IVg																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
														(N 値)	(図)																	
				花崗斑岩	明褐色	Vg				15.27m以深は、割れ目は風化し特色化するが、割れ目周辺の砂状化は認められない。粘土化部は分布せず。割れ目に挟在する粘土脈の分布も少ない。割れ目沿いの一部は薄くマンガン鉱染を受ける。 15.50m：傾斜55°で幅1~10mmと膨縮する軟質な灰黄色粘土脈を挟む。				0	50																	
16				花崗斑岩	明褐色	Ivg		δ		16.00~17.10m：複数の傾斜75~85°で湾曲しながら連続する割れ目が分布する。一部で幅1mmの軟質な灰黄色粘土を挟む。																						
17				花崗斑岩	明褐色	Dg				17.03m・45°、17.82m・40°で幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して連続する。 17.32m：傾斜60°で幅2mmの軟質~やや硬質な明灰オリーブ色の粘土脈を挟む。微細な白雲母を伴う。割れ目に沿って特色化が顕著に見られる。																						
18	-5.70	17.89		黒雲母花崗岩	明褐色	Ivg				17.89~18.44m：黒雲母花崗岩 上端50°で幅3~4mmの石英脈と径2~5mmの緑泥石を伴って、平均径3~10mmの石英、長石、径1~3mmの黒雲母の斑晶からなり、等粒状組織をもつ黒雲母花崗岩である。長石は径10mmと大型化するものもある。下端境界は花崗斑岩に漸移する。上端境界付近でわずかに変質粘土化するが、これ以外での粘土化はない。割れ目や原岩組織は残留するが、風化で著しく軟質化する。 18.44~19.00m：花崗斑岩 19.11~19.33m、28.43~30.40m付近、55.84~57.00m付近など斑晶の量が少なく、アブライト様を呈する部分を挟む。 18.44~21.00m：傾斜30~50°の割れ目が主体で、一部で60~70°の割れ目が交差する。一部に幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を挟む。 18.90~19.75m：傾斜30~50°で幅1~5mmの石英脈が母岩に密着して複数分布する。脈周辺に粘土化は伴わない。 19.08m：傾斜50°で幅2~3mmの硬質な褐色粘土脈を挟み、上端側幅約50mmはマンガン鉱染を受ける。																						
19	-6.09	18.44		花崗斑岩	明褐色	Vg																										
				花崗斑岩	明褐色	Cg																										
				花崗斑岩	明褐色	Ivg																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)											
															(N 値 ~ 深度) 図																										
			+									0 50 100			0 10 20 30 40 50																										
21			+								20.60m: 傾斜70°の割れ目沿いに風化して褐色が進むが、砂状化などの劣化は伴わない。割れ目沿いはマンガン鉱染で黒褐色化する。 21.00~21.66m: 割れ目は少ないが、一部で傾斜60°前後の低密着割れ目を含み、打撃で分離し易い。 21.19m・35°, 21.44m・50°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。 21.50m: 傾斜60°の割れ目は、21.44m・50°の石英脈で横断される。割れ目には不連続な黄灰色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 21.66~26.78m: 傾斜30~50°の割れ目が主体で、割れ目沿いに薄く砂状化したり、幅1~3mmの軟質な灰白色などの粘土脈を挟むことがある。粘土脈の分布は少ない。																														
22			+								22.36~22.40m: 径15mmの大型の長石斑晶が2個見られる。 22.72m・45°~22.78m・50°の間は、風化で砂状化が進む。粘土は伴わない。22.78mの割れ目によって褐色化が見られる。																														
23			+								23.27m: 傾斜50°で多少湾曲した割れ目に幅1mmの軟質な灰白色粘土脈を挟む。 23.40~23.77m: 傾斜60~70°の低密着割れ目が複数平行に分布し、一部で石英、長石斑晶を横断する。割れ目沿いに幅1~2mmで砂状化し、風化で褐色化する。 23.76~24.00m: 傾斜70~90°の湾曲した高角度割れ目に幅1~2mmの灰白色粘土を挟む。 24.15~24.40m: 径10~20mmの大型の石英、カリ長石、長石の斑晶が多い。																														
24			+								24.59m, 25.09m, 25.61m: 傾斜40~45°の割れ目沿いに幅10~20mmが緑泥石化により淡緑灰色化し、径0.5~1mmの白雲母を伴う。																														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ペット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
													N	10	20	30	40																				
26				花崗斑岩		Dg	IVg	cg	δ	2																											
27				明褐灰		Eg	Vg																														
28				花崗斑岩		Eg	Vg	cg	δ	4																											
29				灰褐		Dg	IVg	cg	γ	2																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平応力)	室内試験	掘進 掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 送 水 圧 (kN · MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)												
														0	10	20	30	40											50											
		31		花崗斑岩 灰褐		Bg IIIg bg				<p>30.20~31.03m : 低密着割れ目も多いが、概ね3cm以上の割れ目間隔である。割れ目、低密着割れ目は傾斜30~50°が主体で、それらに沿って薄く砂状化する部分もある。</p> <p>31.03~32.30m : 傾斜60~70°の割れ目、低密着割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する40~50°の割れ目、低密着割れ目も分布する。割れ目沿いに風化し、薄く砂状化する部分もあるが、粘土脈は殆んど挟まない。</p> <p>31.25~31.40m : 傾斜はやや湾曲した傾斜30~90°で、31.60~31.61mでは傾斜50°で、幅5~20mm程度のカリ長石の濃集部の脈を伴う。</p> <p>31.37~31.51m : 1~1.5cm間隔で傾斜60~70°の割れ目、低密着割れ目が平行に分布する。</p> <p>31.75~32.30m : 傾斜85~90°の割れ目がやや波打って連続する。割れ目の一部に幅1~2mmの軟質な灰白色粘土が付着する。</p> <p>32.13m : 傾斜60°、幅5~8mmで径1~3mmの礫を含むマンガン脈を挟む。角礫化残っている部分があり、岩片は移動や回転をしていない。</p> <p>32.30~33.10m : 一部で硬さ「B」の硬質岩片を含む。傾斜30~50°の割れ目と、これらに斜交~直交する60~80°の割れ目が主体である。32.86mの傾斜80°の割れ目の上端部は、割れ目沿いの砂状化はないが、下端部の一部では、割れ目沿いの一部が風化で薄く砂状化する。32.68mに傾斜60°で、32.76mに傾斜30°で幅5~15mmのカリ長石の濃集した脈を挟む。粘土部や粘土脈は全区間を通じて殆んど分布しない。33.00~33.10mの細かい割れ目に幅0.5mm以下のフィルム状の粘土が付着する。</p> <p>33.10~33.65m : 割れ目の面は一部酸化褐色化するが、砂状化や粘土は挟まない。</p> <p>33.24m : 傾斜75°で幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して連続する。</p> <p>33.29~33.96m : 傾斜45~60°で幅2~5mm程度のカリ長石の脈を3条挟む。</p> <p>33.65~37.15m : 34.64mは浅はやや硬質主体、それ以降は硬質である。割れ目は傾斜30~50°が主体であるが、一部でこれらに斜交~直交する50~60°の割れ目も分布する。また、これらの2系統の割れ目と交差する70~90°の割れ目が35.42m付近、36.50m付近などに分布する。34.64mで浅では一部の割れ目沿いが薄く砂状化するが、それ以降では砂状化しないものが主体である。33.75mに傾斜35°で幅20mm程度の柱化した脈を挟む。</p> <p>34.00m : 傾斜60°で幅1~5mmの硬質な白色鉱物脈が直線的にシャープに連続する。下端部34.22m付近まで風化で軟質化する。</p> <p>34.57m~45°~34.63m~65°間は細かい割れ目が発達し、全体に硬さ「D」に軟質化する。粘土化はないが若干砂状化する。マンガン脈染を受け黒褐色化する。</p>																														
		32						Cg Vg				γ		CL'																										
		33						Dg Vg cg				δ		CM'																										
		34						Bg IIIg bg				γ		CH'																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																							
														0	10	20	30	40												50																																						
			花崗斑岩	灰褐	Bg	IVg	bg			35.40m: 傾斜40°の割れ目と70°の割れ目が交差し、径20~30mmに細片状を呈するが、岩片は硬く、砂状化や粘土化、粘土脈は伴わない。	CM'																																																									
36																																																																				
				花崗斑岩	褐灰	Gg	Vg	cg		γ 2	36.20~37.20m: 傾斜75~90°の高角度割れ目が多く分布し、所々で傾斜50°前後の割れ目で止められる。一部で砂状化するが、粘土化や粘土脈は挟まない。 36.37m: 傾斜45°の割れ目は交差する傾斜75~80°の割れ目を止めている。割れ目の一部には幅1mmで風化による砂を挟むが、粘土は伴わない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	CL'																																																								
37																																																																				
			花崗斑岩	緑	IVg	Vg	bg		γ 2	36.68m: 傾斜55°で幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して分布し、38.69mで上位の高角度割れ目を横断する。 36.80~37.00m: 傾斜75~80°の高角度割れ目に幅2~4mmでマンガン鉱染により黒褐色化した砂を挟む。 37.15~39.41m: 上位に比べ割れ目が多く、傾斜40~50°が主体で、これに斜交~直交する60~80°の割れ目も分布する。37.15~37.68m間では粘土化部や粘土脈の挟入は殆んどないが、割れ目沿いに薄く砂状化するものもある。37.68~39.95m間では割れ目は風化で薄く粘土化するが挟入物はない。38.95~39.41m間では割れ目が消滅することが多い。 37.15~37.68m: マンガン鉱染を受け、割れ目とその周辺は黒褐色化し、全体的には褐灰色を呈する。 38.12~38.20m: 割れ目沿いに褐色化するが、岩片は劣化していない。	CM'																																																									
38																																																																				
										花崗斑岩																												褐灰	Dg	Vg	cg	δ 3		38.95~39.41m: 風化と変質で軟質化する。上端25°、下端30°で囲まれた39.34~39.41mの区間は、傾斜20~30°や60~65°で幅1~4mmの灰白~にふい橙色の軟質な粘土脈が多く分布する。	CM'																							
39																																																																				
			花崗斑岩	褐灰	Bg	IVg	bg	γ 2		39.41~40.00m: 上位より割れ目が少なくなる。ほぼ未風化、未変質で堅硬である。 39.50m: 傾斜20°で幅2~4mmの白色変質脈を挟む。	CM'																																																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・r MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																						
														(N 値 ~ 深度) 図	(N) 値																																																	
46			+	花崗斑岩	にぶい橙			IVg bg		45.00~45.45m: 傾斜60~70°の割れ目。低密着割れ目が主体で、これらに斜交~直交する40~60°の割れ目。低密着割れ目が分布する。一部の割れ目はごく薄く砂状化するが、粘土脈は挟まない。割れ目はマンガン結晶で薄く黒褐色化する。	0 50 100	CL'		0 10 20 30 40 50																																																		
																																Vg cg	45.24m: 傾斜45°で幅2~18mmと膨縮した石英脈が連続する。上端側の一部は割れ目化。下端側は密着する。																															
																																Bg	45.45~46.06m: 傾斜70~80°とこれに斜交~直交する40~60°の割れ目。低密着割れ目が主体で、特に低密着割れ目が多く、約10~30mm間隔で分布する。割れ目には挟在物は殆んど分布しない。																															
																																IIIg bg	45.81m: 傾斜45°の割れ目は、直交する傾斜70°の割れ目で横断される。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																															
																																Cg Vg cg	46.06~46.31m: 互いに直交する傾斜50°前後の割れ目が分布する。割れ目には挟在物は伴わない。																															
																																47			+	花崗斑岩	にぶい橙			IIIg bg	2	46.31~46.67m: 傾斜40~50°の割れ目。低密着割れ目が約10mm間隔と細かく平行に分布し、一部で薄く砂状化する。一部の岩片は硬質であるが、全体にやや硬質である。	0 50 100	CH'		0 10 20 30 40 50																		
																																																															Bg	46.67~47.49m: 割れ目。低密着割れ目とも挟在物はない。46.85~47.00mに傾斜85°の低密着割れ目が分布する。
																																																															IVg	47.48~47.67m: 傾斜60~85°の低密着割れ目が分布し細片化する。
																																48			+	花崗斑岩	にぶい橙			Vg cg	δ	47.67~48.84m: 傾斜40~50°の割れ目が平行に分布し、傾斜40~50°ないし60~70°の低密着割れ目も分布する。48.17m以浅は風化で割れ目沿いの一部は砂状化する。砂や粘土脈は殆んど挟まない。	0 50 100	CL'		0 10 20 30 40 50																		
																																																														Cg	48.17m: 傾斜50°で幅5~7mmの風化した明褐色の砂を挟む。両側幅5~10mmは緑泥石化により淡緑灰色化する。径0.1mmの微細な白雲母が晶出する。	
																																																															IVg	48.84~49.83m: 傾斜40~50°の割れ目。低密着割れ目が主体で、49.17m以深では割れ目沿いに砂状化することが多い。一部の割れ目、低密着割れ目で幅0.5mmの軟質な白~明黄褐色の粘土脈を挟む。
																																49			+	花崗斑岩	にぶい橙			Vg cg	δ	49.83~52.07m: 傾斜20~40°の割れ目が主体で、一部緑泥石化により緑灰色化する。緑灰色部は割れ目方向と譲和的に分布する。粘土化部や粘土脈は伴わない。50.03~50.11m間は若干風化し、割れ目の一部にごく薄い砂を挟む。	0 50 100	CL'		0 10 20 30 40 50																		
緑灰	Bg	IVg	bg	γ	2																																																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記号	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																																																																				
															(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)																																																																																																																																															
51			花崗斑岩 灰褐	緑灰 緑灰	緑灰 緑灰			IVg Bg bg		2	50.81m: 傾斜40°の割れ目は、交差する55°の割れ目を止めている。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 51.20m, 51.33m: 傾斜38°, 47°の各割れ目に径0.1mmの微細な黄鉄鉱が晶出する。 51.66~52.07m: 傾斜80~90°の低密着割れ目が連続する。挟在物はない。 51.80m: 傾斜25°で幅1mmの白色鉱物が不連続に脈状に分布する。	CM'																																																																																																																																																			
52																																	花崗斑岩 灰褐	緑灰 緑灰	緑灰 緑灰			Eg Vg IVg		3	52.07~52.55m: 径10~30mm主体の岩片と、岩片間を縫うように分布する幅1~5mmの軟質な灰白~白色の粘土脈からなる基質部である。 52.07m: 傾斜45°で幅7~8mmの硬質な白色の石英脈を挟む。 52.52m: 傾斜25°で幅3~5mmの硬質な白色の石英脈を挟み、明オリブ灰色の幅2~3mmの軟質粘土を伴う。 52.55~52.97m: 不規則な割れ目、低密着割れ目が多く、径10~30mmに岩片化する。一部に幅0.5~1mmの石英脈を挟み、52.82mの傾斜28°の割れ目には幅2mmの軟質な緑灰色粘土脈を挟む。 ●52.97~53.46m: 破砕部 52.97~53.05m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端50°, 下端50°とともに直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒と径5~10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。灰白色を呈する。幅40mm。 53.05m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜45°で直線的であるが、連続しない。幅3mmの軟質な褐灰色粘土からなる。径1~2mmの石英粒を少量含む。周囲との境界は漸移的である。 53.05~53.10m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端50°で直線的に連続。下端はコア擾乱部で不明瞭。径1~3mmの石英粒、径5~10mmの一部粘土化、一部硬さ「D」の岩片を多く含む。灰白色を呈する。幅30~40mm。 53.10~53.44m: 粘土混じり角礫状部 (H1) 上端はコア擾乱部で不明瞭。下端45°でやや波打って連続。径5~20mmの硬さ「D」と粘土化した基質からなる。基質中には幅1~2mmの軟質な白~緑灰色粘土脈が傾斜10~50°で分布する。全体に緑灰~にぶい橙~灰白色を呈する。 53.44~53.46m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端45°でやや波打って漸移的に、下端45°で直線的にシャープに連続。径1mmの石英粒と径3mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を少量含む。やや軟質。灰白~緑灰色を呈する。幅4~12mmと膨脹する。	D'																																																																																																																					
53																																																																		花崗斑岩 灰褐	緑灰 緑灰	緑灰 緑灰			Cg Vg Eg		4	●52.97~53.46m: 破砕部 52.97~53.05m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端50°, 下端50°とともに直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒と径5~10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。灰白色を呈する。幅30~40mm。 53.10~53.44m: 粘土混じり角礫状部 (H1) 上端はコア擾乱部で不明瞭。下端45°でやや波打って連続。径5~20mmの硬さ「D」と粘土化した基質からなる。基質中には幅1~2mmの軟質な白~緑灰色粘土脈が傾斜10~50°で分布する。全体に緑灰~にぶい橙~灰白色を呈する。 53.44~53.46m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端45°でやや波打って漸移的に、下端45°で直線的にシャープに連続。径1mmの石英粒と径3mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を少量含む。やや軟質。灰白~緑灰色を呈する。幅4~12mmと膨脹する。	D'																																																																																				
54																																																																																																	花崗斑岩 灰褐	緑灰 緑灰	緑灰 緑灰			Cg Vg Dg Cg		3	●52.97~53.46m: 破砕部 52.97~53.05m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端50°, 下端50°とともに直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒と径5~10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。灰白色を呈する。幅30~40mm。 53.10~53.44m: 粘土混じり角礫状部 (H1) 上端はコア擾乱部で不明瞭。下端45°でやや波打って連続。径5~20mmの硬さ「D」と粘土化した基質からなる。基質中には幅1~2mmの軟質な白~緑灰色粘土脈が傾斜10~50°で分布する。全体に緑灰~にぶい橙~灰白色を呈する。 53.44~53.46m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端45°でやや波打って漸移的に、下端45°で直線的にシャープに連続。径1mmの石英粒と径3mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を少量含む。やや軟質。灰白~緑灰色を呈する。幅4~12mmと膨脹する。	D'																																																					
																																																																																																																																花崗斑岩 灰褐	緑灰 緑灰	緑灰 緑灰			Dg Cg		2	53.46~53.68m: 著しく軟質化する。 53.55m・55°, 53.67m・70°の各割れ目に各々幅1mm、幅2~4mmの軟質な緑灰色粘土脈を挟む。 53.68~56.54m: 傾斜30~40°とこれらに斜交する60~80°の割れ目と低密着割れ目が細かく分布する。 53.89m: 傾斜20°で幅1~2mmの白色鉱物脈を挟み、その下に幅10mmで方角石が露出した脈を伴う。 54.44m: 傾斜70°で幅3~8mmの方角石脈を挟む。上端側境界は割れ目化する。下端は母岩に密着しており、54.44mで傾斜65°の割れ目を横断し、割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 54.44~54.64m: 割れ目沿いに砂状化と径5~10mmに細片化する。	CL'																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記号	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位試験 (孔内水平懸垂)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)											
															(N値~深度) 図																										
			花崗斑岩								55.07m : 傾斜55° で幅1mmの暗灰色粘土を挟む。 3	0			0	10	20	30	40	50																					
								Dg					4																												
56								Vg cg				55.41m以深では割れ目沿いに砂状化することが多く、一部の割れ目に幅1mm程度の軟質～やや硬質な白色粘土が付着するが、粘土脈としては連続しない。 55.41m : 傾斜55° の割れ目で、上端側の20° の割れ目、下端側の80° の割れ目がまがっている。割れ目には球状物が認められない。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 55.80m : 傾斜60° で幅1mm以下の暗灰色粘土と幅0~3mmの不連続な方解石脈を挟む。 56.18m・50° ~56.23m・50° の割れ目に囲まれてやや軟質化する。 2	4																												
								Cg					12																												
57								Bg IVg bg				56.54~56.57m : 変質部 上端60° で直線的にシャープであるが、浅部側延長部で70~90° で大きく湾曲、下端60° で1箇所を屈曲してシャープに連続する。径1mm前後の石英粒と径5~10mmの粘土化した岩片を多く含む。軟質な白色の粘土質礫状態で全体の色調は灰白~明褐色で斑模様を呈する。幅10~15mmで、浅部側の56.52m付近で挟む粘土脈は2つに分れる。 56.57~57.63m : 傾斜50~60° とこれと斜交～直交する20~60° の割れ目が主体である。割れ目には砂、粘土など挟在物はない。一部で割れ目と同傾斜の低密度割れ目も分布する。 1	4																												
								Cg Vg cg				57.63~57.75m : 傾斜50~60° の割れ目、低密度割れ目が5~10mm間隔で平行に分布し軟質化する。 57.75~58.37m : 割れ目は少ないが、主に58.00~58.15m間に傾斜40~50° の低密度割れ目が多い。砂、粘土の挟在物はない。57.90~58.37m間に傾斜80~90° の割れ目が連続し、他の割れ目との交差部の一部は径3~5mmに細片化する。 2	4																												
58								IVg bg				58.37~58.85m : 傾斜20~30° の割れ目と80~90° の割れ目が交差し、交差部の一部はごく薄く砂状化したり、径5mm前後に細片化する。粘土は挟まない。 2	4																												
								Bg					8																												
								Vg cg					9																												
59								Cg				58.85~58.96m : 傾斜50° の割れ目が主体である。 58.85m : 傾斜50° の割れ目は直線的でシャープに連続し、面には条線が見られる。割れ目沿いに径5mmのやや扁平化した薄片と岩片間を埋める明緑灰色の軟質粘土からなる粘土混じり岩片状部が幅10mmで見られるが不連続で、周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 58.96~59.47m : 傾斜50~70° の割れ目が主体である。割れ目の挟在物はない。 59.16m : 傾斜45° の割れ目の下端側幅約30mmは細粒花崗岩様を呈するが、花崗斑岩との境界は漸移的である。 59.47~60.06m : 傾斜30~50° の割れ目、低密度割れ目に幅1mm前後の軟質な白色粘土脈を多く挟む。網目状に石英脈を挟む。 3	4																												
								Bg IVg bg					7																												
								Eg Vg dg					10																												
							Dg																																		
							Cg																																		
							Vg cg																																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
														(N)	(m)																
61				花崗斑岩 灰褐 明褐灰 緑灰 灰褐	Cg	Vg	cg	●60.06~60.38m: 破砕部 60.06m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜45°で直線的にシャープに連続する幅3mmの軟質一部や硬質な暗緑灰色粘土からなる。石英粒や岩片は含まない。 60.06~60.16m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端45°で直線的にシャープに連続。下端は不明瞭。径2~3mmの石英粒。径5~10mmの粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。緑色を帯びた灰白色を呈する。幅約30~50mm。 60.16~60.38m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端不明瞭。下端60°で直線的にシャープに連続。径10mm前後の粘土化~硬さ「D」の花崗斑岩の岩片と岩片間に網状に分布する幅1~3mmの灰白色粘土脈からなる。明褐灰~緑灰色を呈する。 60.38~60.74m: 割れ目は消滅しかかっているが、傾斜50~60°の割れ目の一部が残留する。割れ目や岩片間に幅1mm前後の軟質白色粘土脈が分布し、傾斜50~80°の石英、方解石の白色鉱物脈が幅2~5mmで分布する。 60.74~60.90m: 径5~20mmの硬さ「D」の花崗斑岩の岩片と粘土化した基質からなる角礫状を呈するが、原岩組織は認められる。 60.96~61.39m: 低密着割れ目沿いに主に径10~20mmに細片化する。岩片に粘土が付着していることが多い。 61.25~61.28m: 傾斜15°で緑灰色化した岩片が分布する。割れ目や岩片の表面に径0.5mm前後の黄鉄鉱が晶出する。幅10mmの灰色の石英脈を伴う。 61.39~61.47m: 変質部。上端20°、下端5°の直線的でシャープな割れ目に囲まれ、径5~20mmの硬さ「D」の岩片と粘土化した基質からなる。 ●61.47~61.52m: 破砕部 61.47~61.52m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端5°、下端45°とともに直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒。径2~10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。緑色を帯びた灰白色を呈する。幅50mm。 61.52m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜45°で直線的にシャープに連続する幅1mmの軟質な暗緑灰色粘土からなる。 61.52~62.42m: 傾斜20~60°とこれに斜交~直交する50~60°の割れ目が分布し、このうち、傾斜20~30°の割れ目は直線的でシャープに連続することが多い。割れ目は薄く砂状化したり、幅1mm前後の軟質な暗緑灰~灰白色の粘土を挟むことが多い。 62.38m: 傾斜30°の割れ目は、交差する60°の割れ目を止めている。割れ目には挟持物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 62.42~62.49m: 上端25°、下端20°の割れ目に囲まれ、径5mm前後の硬さ「D」の岩片と粘土化が著しい基質からなる。 62.49~62.74m: 変質で著しく軟化するが、割れ目の一部が残留する。割れ目は傾斜10~40°が主体で、幅0.5~1mmの暗緑灰色、灰赤色の粘土脈を挟む。 62.67m: 傾斜40°で幅0.5mmの軟質な灰赤色粘土を挟む。その下層側幅3~12mmに径5mm前後の白色礫と軟質な白色粘土脈を伴う。 62.74~63.29m: 割れ目は消滅しかかっているが、傾斜70°前後と40°前後の割れ目、低密着割れ目が残留する。粘土脈は挟まないが、岩片間にフィルム状の淡緑灰~白色粘土が付着することが多い。	0	100																					
							Eg		Vg	dg	3																				
							Dg		Vg	cg	3																				
							Eg		Vg	dg	2																				
							Cg		Vg	cg	3																				
							Eg		Vg	dg	4																				
62							Dg		Vg	cg	3																				
							Vg		dg	4																					
							Eg		Vg	cg	3																				
63							Dg		Vg	cg	3																				
					Eg	Vg	dg	3																							
64					Bg	Vg	bg	2																							

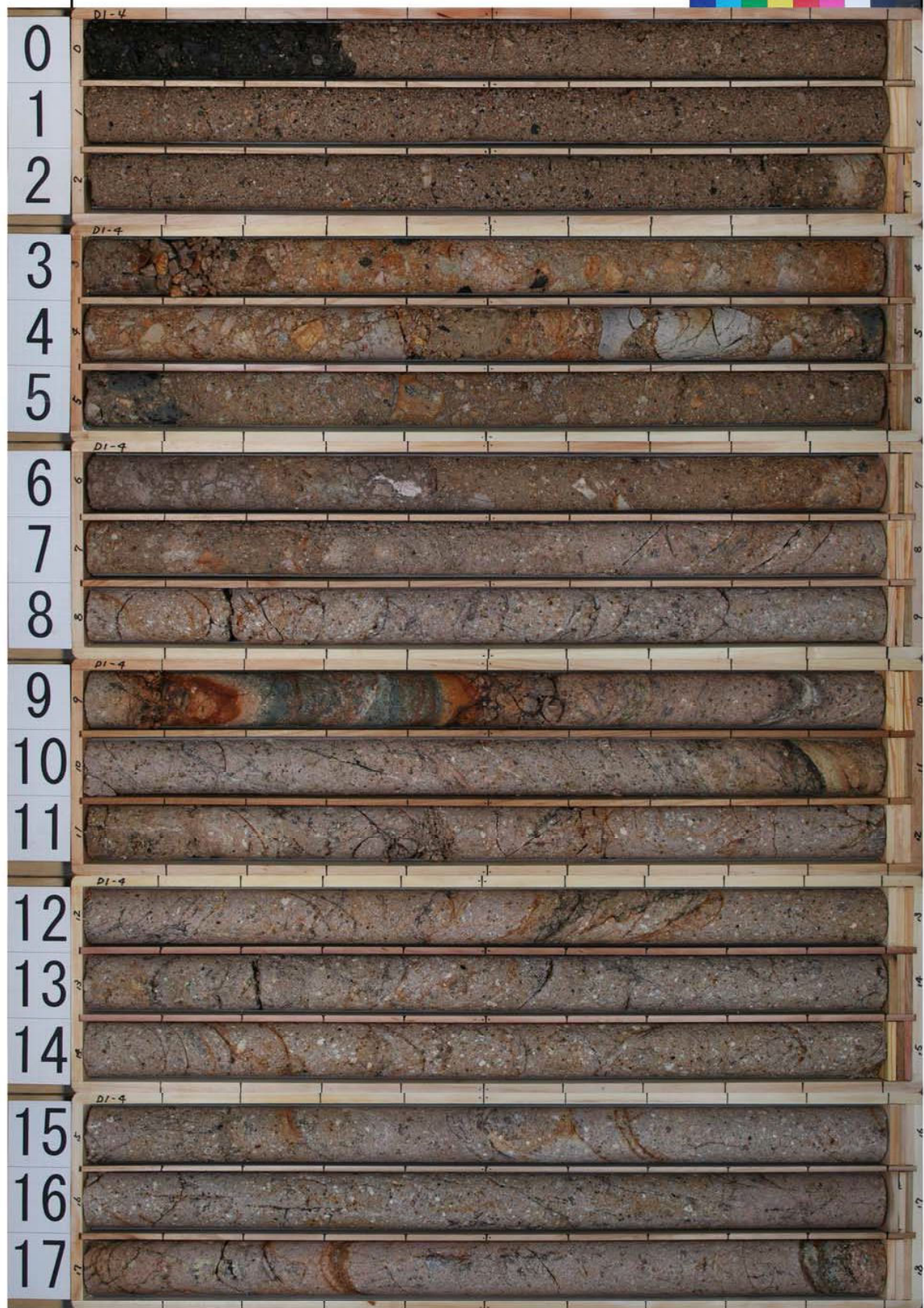
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(標準貫入) 試験					原位試験 (孔内水平試験)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
														(N 値 ~ 深度) 図																								
														0	10	20	30	40												50								
61				灰褐	Cg Vg cg																																	
						Eg Vg dg				3																												
						Dg Vg cg																																
						Eg Vg dg																																
						Cg Vg cg				2																												
						Eg Vg dg				3																												
						Dg Vg cg				4																												
62					明褐灰	Vg dg																																
					花崗斑岩	Eg																																
					緑灰	Vg cg																																
63						Dg																																
						Eg Vg dg				3																												
				灰褐	Bg Vg dg																																	
64					Bg Vg dg																																	
					Bg Vg dg																																	
					Bg Vg dg																																	
					Bg Vg dg																																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コアラ形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コアラ長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図																																														
															原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)																																				
		66		花崗斑岩	灰褐	Bg	bg	2		2	65.06~66.65m: 傾斜30~60° とこれらに斜交~直交する40~80° の割れ目が主体で、割れ目は直線的にシャープではなく流折れながら不規則に連続するものが多い。砂状部や粘土部などは挟まないが、割れ目沿いに径5mm前後に細片化することがある。65.09m・50°、65.31m・60° の各割れ目沿いに、各々幅5~20mm、幅5mmが緑灰色化し、径0.5mm以下の微小な黄鉄鉱が少量晶出する。	CM																																																	
		67	明褐灰								Eg		Vg	dg	3	γ	66.50~66.65m: 傾斜55~60° の割れ目がほぼ平行に5~20mm間隔で分布する。粘土は挟まない。 66.64m: 傾斜65° の割れ目沿いに幅5mmで緑泥石化により淡緑灰色化し、幅0.5mmの黄鉄鉱脈を伴う。 66.65~66.85m: 実質部主として実質により著しく軟質化する。上端は傾斜65° の割れ目で直線的でシャープに上位の岩盤と接するが、下端は漸移的である。径5~20mmの硬さ「D」~粘土化した岩片と粘土化した基質からなる。基質中には所々に幅1~2mmの軟質な粘土脈が分布する。 66.85~67.88m: 割れ目は一部が消滅。一部は傾斜60~70° が主体で残留する。同傾斜の低密着割れ目も多く分布する。割れ目の一部に幅1~3mmの軟質な白~暗緑灰色の粘土脈が分布する。	CL'																																											
		68															Dg		Cg	Dg	Cg	2		67.88m: 傾斜65° の割れ目は、交差する60~70° の低密着割れ目を多数止めているように見える。割れ目には挟在物が認められるが、割れ目の凹凸が著しい。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 67.88~67.98m: 上端65°、下端55° の割れ目で囲まれ、実質と風化で著しく軟質化する。せん断面は分布しない。 67.98~70.00m: 傾斜50~70° の割れ目、低密着割れ目が主体で、割れ目の一部は砂状化~径5mm前後に細片化するが、全体に粘土化は殆んどしていない。69.80m以深には、幅1mm以下の軟質な白色粘土脈が少量分布する。また、68.32m、68.57m、68.84mには傾斜40~70° で幅1~3mmの軟質な暗緑灰色粘土を挟む。																																					
		69																						Cg		Dg	Cg	Dg	Cg	Dg	2		69.52m・70°、69.75m・70° の割れ目は、交差する多数の割れ目を止めている。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																												
	42.55	70.00																																	明褐灰	Dg																									

孔番 D1-4 孔

深度 0.00m ~18.00m

孔口標高 6.95m



孔番 D1-4 孔

深度 18.00m ~ 36.00m

孔口標高 6.95m



孔番 D1-4 孔

深度 36.00m ~ 54.00m

孔口標高 6.95m



孔番 D1-4 孔

深度 54.00m ~ 70.00m

孔口標高 6.95m



余白

H27-B-3

余白

標 尺 (m)	標 高 度 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測 定 月 日	標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原 位 置 置 試 験 (孔内水平距離)	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー リ ン グ ノ ビ ット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)						
													0	10	20	30	40												50					
		6							5.27~10.05m : 砂礫 径2~170mm程度の花崗岩類、砂岩の 角~歪角礫を含む粗粒砂からなる。																									
		7							5.60~7.07m : 砂を挟む。中粒砂主体 で塊状。ラミナなどの堆積構造は分 布しない。径2~3mmの石英粒を少量(5%未満)含む。																									
									6.50m以深は締まりが良い。																									
		8							8.01~8.37m : 砂を挟む。																									
		9							9.21~9.66m : 腐食した鉄棒を含むモ ルタル(一部に花崗岩骨材少量含 む)。																									
									9.80m付近にモルタルを含む。																									

にぶい黄褐

盛土

オリブ灰

灰黄褐

標 尺	標 高	深 度	柱 状	岩 種	色 調	硬 軟	割 裂 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コ ー ア 採 取 率 (%)	岩 級	標準貫入 試験				原 位 置 試 験 (孔 内 水 平 膨 脹)	室 内 試 験	掘 進 速 度 (cm/時)	掘 進 日	給 水 圧 (kN・r / MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)			
												(N 値 ~ 深 度) 図															
												0	10	20	30										40	50	
	-0.05	10.05		凝土 灰黄緑					10.05~180.00m: 花崗斑岩 径1~3mmの石英、長石を斑晶とする 花崗斑岩。長石は白濁化することが 多い。 10.05~12.96m: CL 硬さ「C」主体で上端側の10.05~11.20mと中央部の11.82~12.00mは風化 が進んで硬さ「D」である。 硬さ「C」の区間の一部で割れ目に挟 在物を含まない部分があるが、多く は風化により砂や変質粘土を脈状に 挟む。長石の多くは白濁化している。 10.70~10.80m: 硬さ「C」の硬質岩 片が残留する。																		
11						Dg	cg	δ	2																		
							Cg	bg	γ																		
							Dg		δ	3																	
12							Cg	Vg	γ	2																	
13							Eg	cg		3																	
14							Cg		δ	2																	
							Eg			3																	
							Dg			2																	

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟	コ ア 形 状	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コ ア 採 取 率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測 定 月 日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深 度) 図					原 位 置 試験 (孔 内 水 平 監 視)	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ル ノ ー ツ	給 圧 (kN・rpm)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)	
														0	10	20	30	40												50
16				明褐灰		Dg Vg cg δ 2				15.33~15.43m: 風化による砂状化と熱水変質による粘土化で軟質化著しい。上下端とも35°前後の割れ目である。																				
						Eg Vg dg ε 3								15.73~15.80m: 80°の割れ目沿いに薄くマンガニ鉄染を受ける。	16.31m: 50°の割れ目沿いに幅5~15mmでやや硬質な白色シルト~粘土を挟む。 16.49m: 35°の割れ目から下位は硬さ「C」主体。一部に密着度の低い割れ目を含む。 16.76~16.87m: 径10~20mmの岩片状を呈する。岩片間は幅1~2mm程度で砂状化する。	17.13~17.31m: 割れ目の一部に幅1~2mmの軟質灰白色粘土を挟む。	17.40~19.00m: 密着度の低い風化割れ目を含む。ハンマーの打撃で割れ目の一部は分離、細片化する。割れ目化し、開口しているものも多い。	17.85~18.00m: 割れ目が交差。一部で径20~30mmに岩片化する。粘土や砂は挟まない。 18.05~18.47m: 硬化変質により石英量が多くなり硬化する。												18.43~20.04m: 一部の割れ目沿いや岩芯がマンガニ鉄染を受け、黒褐色化するが劣化は伴わない。
17				花崗斑岩																										
18				にぶい橙																										
19				明褐灰																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N 値 ~ 深度) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)											
															試験																										
															0	10	20	30	40	50																					
21				明褐灰 に多い橙		Bg IVg	bg	γ			20.04~20.93m: CM 一部に密着度の低い割れ目を含むが、岩片は堅硬。長石の一部は白濁化するが、未変質で残留するものが多い。割れ目に挟在物は殆んど分布しない。	0	CL																												
22				花崗斑岩		Dg Vg	cg	δ		2	20.93~26.70m: CL 前後の割れ目が主体、一部で70~90°の高角度割れ目と交差する。割れ目沿いに薄く砂状化するが、部分的に砂状化が拡大する部分も含む。また、所々、幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を挟む。22.69m以浅は硬さ「D」、22.69~23.71mは硬さ「C」、23.71m以深は硬さ「D」が主体で、硬さ「C」主体の区間では割れ目に挟在物が分布しないことが多い。 21.14~21.24m: 上端42°、下端49°の割れ目の間が全体的に風化し、砂状化が進む。酸化、マンガン鉱染が見られる。 21.55~21.65m: 風化による砂状部と硬さ「C」ないし「D」の岩片で砂礫状を呈する。 粘土は殆んど伴わない。 21.70~22.40m: 高角度割れ目を主体に、幅1mm以下でごく薄くマンガン鉱染や幅1~3mmの軟質な白色粘土脈が分布する。 22.03~22.63m: 70~90°で湾曲して連続する割れ目沿いに幅5~10mmで砂状化し、幅1~2mmの軟質粘土脈を伴う。 22.10~22.45m: 一部に硬さ「C」の岩片を伴う。高角度割れ目沿いが風化する。 22.50~22.64m: 上端60°で幅2~3mmの褐色粘土脈、下端45°で幅1mmの褐色砂に囲まれて軟質化が著しく、一部で幅0.5mmの白色粘土脈を網状に伴う。 22.91~23.49m: 40°前後の割れ目が同方向に分布し、これらに直交~60°斜交する80~90°の割れ目を止めることがある。40°の割れ目の細粒部は、局所的で系統性に乏しい。割れ目周辺の岩盤に劣化が認められない。 23.45~23.71m: 80°で幅1~3mmの軟質白色粘土脈を挟む。 23.71~24.53m: 軟質化し、硬さ「D」主体。 23.71~23.95m: 80~90°の高角度割れ目はマンガン鉱染を伴う。 24.06~24.22m: 硬さ「C」主体。 24.37m: 45°で幅2mmの石英脈を挟む。 24.53~26.70m: 硬さ「C」主体。上位よりも割れ目がやや少なくなる。 24.60~24.92m: 80~90°の割れ目に幅1~5mmのマンガン鉱染で黒褐色砂を挟む。	0	CL																												
23				明褐灰		Cg IVg	bg	γ					CL'																												
24						Dg Vg	cg	δ																																	

標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入 () 試験 () 図 N 値 ~ 深度		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ピット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)						
												()	()																	
26		+	明褐灰	IVg	cg	γ	2	25.00~25.81m及び25.09~25.28m: 85~90°の割れ目に幅1~2mmで一部マンガン鉱染で黒褐色化した砂を挟む。一部で風化により軟質化し、硬さ「D」の部分も認められる。	0	CL'			0 10 20 30 40 50																	
								25.80m以深は割れ目が多くなる。割れ目沿いに砂状化する部分が多い。																		18 (118)				
								26.22m: 50°の割れ目は交差する高角度割れ目を止めている。割れ目の細粒部は局部的で連続性に乏しい。																						
27		+	灰白	Eg	Vg	dg	δ	●26.70~26.90m: 破砕部 26.70m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜43°で上下端ともに直線的に連続。石英粒、岩片を含まない。軟質。淡黄色を呈する。幅1mm以下。 26.70~26.71m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端43°、下端43°でともに直線的に連続。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの粘土化~硬さ「D」岩片を20~30%含む。軟質。灰白色を呈する。幅10mm。 26.71m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜43°で上下端ともに直線的に連続。軟質。灰白色を呈する。幅1mm。 26.71~26.90m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端43°で直線的に、下端54°でやや湾曲して連続。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの粘土化~硬さ「D」岩片を20~30%含む。軟質。下端は幅1~2mmの粘土脈を伴う。灰白色を呈する。幅150~170mm。 26.90~27.57m: D 27.00m以浅は砂礫状、27.00m以深はバラけた礫状を呈するが、27.00m以深も本来は砂状の基質と岩片で形成されていたと推定される。 27.57~28.12m: CL 硬さ「C」の岩片主体である。割れ目沿いに薄く砂や粘土を挟むことが多い。 27.98m: 37°の割れ目に幅10mmの白色シルトを挟む。 ●28.12~28.14m: 破砕部 28.12m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜43°で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をこわすか(5%以下)含む。軟質。淡黄色を呈する。幅1~3mm。 28.12~28.14m: 礫質砂状部 (Hb) 上端43°で直線的に、下端45~55°で波打って連続。粘土化と砂状化の著しい径3~5mmの岩片からなる。にぶい黄褐色を呈する。幅5~7mm。 28.14~29.10m: CL 硬さ「C」主体で、28.85m以深は風化し硬さ「D」と軟質化する。割れ目は直上位の破砕部のHc-1の粘土と同方向に近い40~60°で分布する。 ●29.10~29.12m: 破砕部 29.10~29.11m: 粘土状部 (Hc-1) 上端49°で直線的に、下端50°で波打って連続。径1mmの石英粒をこわすか(5%以下)含む。軟質。上端側は灰白色、中央部~下端側は灰黄褐色で絹状を呈する。幅5~10mm。 29.11~29.12m: 礫質粘土状部 (Hb) 上端50°、下端45~55°でいずれも波打って連続。径1~2mmの石英粒、径3~5mmの粘土化した岩片を20%程度含む。やや硬質。オリーブ色帯びた灰白色を呈する。幅7~11mm。 29.12~30.56m: CL 30.02m以浅は硬さ「D」、以深は硬さ「C」主体。 29.15~29.60m、30.30~30.56m: 割れ目沿いや岩芯の一部が弱くマンガン鉱染を受ける。 29.47~29.59m: 網目状の割れ目に白色粘土、マンガン鉱染が見られる。	0	D'																				
								27.00m以浅は砂礫状、27.00m以深はバラけた礫状を呈するが、27.00m以深も本来は砂状の基質と岩片で形成されていたと推定される。																						15 (0)
								●28.12~28.14m: 破砕部																						
28		+	明褐灰	Eg	Vg	cg	γ	27.00m以浅は砂礫状、27.00m以深はバラけた礫状を呈するが、27.00m以深も本来は砂状の基質と岩片で形成されていたと推定される。 27.57~28.12m: CL 硬さ「C」の岩片主体である。割れ目沿いに薄く砂や粘土を挟むことが多い。 27.98m: 37°の割れ目に幅10mmの白色シルトを挟む。 ●28.12~28.14m: 破砕部 28.12m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜43°で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をこわすか(5%以下)含む。軟質。淡黄色を呈する。幅1~3mm。 28.12~28.14m: 礫質砂状部 (Hb) 上端43°で直線的に、下端45~55°で波打って連続。粘土化と砂状化の著しい径3~5mmの岩片からなる。にぶい黄褐色を呈する。幅5~7mm。 28.14~29.10m: CL 硬さ「C」主体で、28.85m以深は風化し硬さ「D」と軟質化する。割れ目は直上位の破砕部のHc-1の粘土と同方向に近い40~60°で分布する。 ●29.10~29.12m: 破砕部 29.10~29.11m: 粘土状部 (Hc-1) 上端49°で直線的に、下端50°で波打って連続。径1mmの石英粒をこわすか(5%以下)含む。軟質。上端側は灰白色、中央部~下端側は灰黄褐色で絹状を呈する。幅5~10mm。 29.11~29.12m: 礫質粘土状部 (Hb) 上端50°、下端45~55°でいずれも波打って連続。径1~2mmの石英粒、径3~5mmの粘土化した岩片を20%程度含む。やや硬質。オリーブ色帯びた灰白色を呈する。幅7~11mm。 29.12~30.56m: CL 30.02m以浅は硬さ「D」、以深は硬さ「C」主体。 29.15~29.60m、30.30~30.56m: 割れ目沿いや岩芯の一部が弱くマンガン鉱染を受ける。 29.47~29.59m: 網目状の割れ目に白色粘土、マンガン鉱染が見られる。	0	CL'																				
								27.00m以浅は砂礫状、27.00m以深はバラけた礫状を呈するが、27.00m以深も本来は砂状の基質と岩片で形成されていたと推定される。																					16 (0)	
								●28.12~28.14m: 破砕部																						
29		+	明褐灰	Eg	Vg	cg	δ	27.00m以浅は砂礫状、27.00m以深はバラけた礫状を呈するが、27.00m以深も本来は砂状の基質と岩片で形成されていたと推定される。 27.57~28.12m: CL 硬さ「C」の岩片主体である。割れ目沿いに薄く砂や粘土を挟むことが多い。 27.98m: 37°の割れ目に幅10mmの白色シルトを挟む。 ●28.12~28.14m: 破砕部 28.12m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜43°で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をこわすか(5%以下)含む。軟質。淡黄色を呈する。幅1~3mm。 28.12~28.14m: 礫質砂状部 (Hb) 上端43°で直線的に、下端45~55°で波打って連続。粘土化と砂状化の著しい径3~5mmの岩片からなる。にぶい黄褐色を呈する。幅5~7mm。 28.14~29.10m: CL 硬さ「C」主体で、28.85m以深は風化し硬さ「D」と軟質化する。割れ目は直上位の破砕部のHc-1の粘土と同方向に近い40~60°で分布する。 ●29.10~29.12m: 破砕部 29.10~29.11m: 粘土状部 (Hc-1) 上端49°で直線的に、下端50°で波打って連続。径1mmの石英粒をこわすか(5%以下)含む。軟質。上端側は灰白色、中央部~下端側は灰黄褐色で絹状を呈する。幅5~10mm。 29.11~29.12m: 礫質粘土状部 (Hb) 上端50°、下端45~55°でいずれも波打って連続。径1~2mmの石英粒、径3~5mmの粘土化した岩片を20%程度含む。やや硬質。オリーブ色帯びた灰白色を呈する。幅7~11mm。 29.12~30.56m: CL 30.02m以浅は硬さ「D」、以深は硬さ「C」主体。 29.15~29.60m、30.30~30.56m: 割れ目沿いや岩芯の一部が弱くマンガン鉱染を受ける。 29.47~29.59m: 網目状の割れ目に白色粘土、マンガン鉱染が見られる。	0	D'																				
								27.00m以浅は砂礫状、27.00m以深はバラけた礫状を呈するが、27.00m以深も本来は砂状の基質と岩片で形成されていたと推定される。																					16 (0)	
								●28.12~28.14m: 破砕部																						

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) / 測 定 日 月 日	標準貫入 (N 値 ~ 深 度) 図		原 位 置 試 験 (孔 内 水 平 監 視)	室 内 試 験	掘 進 日 月 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ル / ビ ッ ト	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 量 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)						
													(N 値)	(深 度)																	
31			花崗斑岩	明褐灰	Cg	IV _E	cg	γ	30.55m付近をはじめ、割れ目沿いに風化で砂状化する部分がある。密着度の低い割れ目。ゆる割れ目が多い。 30.56~32.21m: CH 堅硬、割れ目の挟在物は一部を除き分布しない。割れ目や岩芯の一部は弱くマンガン鉱染を受けるが、劣化は伴わない。密着度の低い割れ目やゆる割れ目は殆んど分布しない。	3	CL'																				
									Bg	III _E	β	31.20m付近は59°、54°の割れ目が交差し、短柱状(コア長5cm前後)に砕けている。	17	CH'																	
32												bg	31.62~31.66m: 上下端とも50°の割れ目に囲まれ軟質化する。上下端には各々幅2mm、0.5mmの軟質褐色粘土脈を挟む。	40																	
													2	32.11m: 40°の割れ目が幅15~20mmで緑泥石化し、淡緑灰色化する。径0.5mm以下の微細なセリサイトを伴う。劣化や粘土化はない。 32.21~33.09m: CM 一部を除き、挟在物を挟まない割れ目が主体。密着度の低い割れ目を多く含む。一部では開口している。 32.30~32.53m: 割れ目沿いや岩芯の一部がマンガン鉱染を受けるが、劣化は伴わない。 32.53m: 45°で幅2mmの軟質褐色粘土を挟み、その上下端には粘土とほぼ直交する割れ目が分布する。	10	CM'															
33				灰褐	Cg	IV _E	γ	2	33.09~34.20m: CL 60~90°の高角度割れ目が多く、一部で分岐~取れんを繰り返す。これらの割れ目はマンガン鉱染や幅1~2mmの軟質な灰白色粘土を脈状に伴うことが多い。 また、風化による砂状化が拡大する部分もある。33.70m以深は硬さ「C」の岩片も多く含む。	5	CL'																				
											Dg	V _E	cg	δ	10																
34					Cg	IV _E	bg	γ	34.20m: 40°で幅2~3mmのやや硬質な灰白色粘土脈を挟む。 34.20~35.94m: CM 殆んどの割れ目に挟在物は分布しないが、岩芯の一部も含め、弱くマンガン鉱染を受ける。劣化は伴わない。密着度の低い割れ目やゆる割れ目が多い。白濁化した長石が多い。	9	CM'																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)									
															0	10	20	30	40												50								
			花崗斑岩	灰褐	Cg	IVg		γ			35.31m : 60° の割れ目沿いに幅3~5mが砂状化する。 35.47m : 5° の割れ目で90° の割れ目が止められる。5° の割れ目に細粒部は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	CM'																											
36				にぶい褐	Bg	IIIg		β	2			35.94~37.30m : OH 堅硬。割れ目に挟在物は分布しない。 36.07~36.32m : 割れ目沿いや岩芯の一部でマンガン鉱染を受けるが、劣化は伴わない。密着度の低い割れ目が区間内に数本分布する。	OH'																										
37					Cg	IVg		γ				37.03m : 57° の割れ目沿いの一部で幅3mm前後が砂~細片化する。57° の割れ目を横断する潜在割れ目が37.05m, 37.08mに見られる。57° の割れ目の砂~細片化部は直線性に乏しく、割れ目周辺の原岩組織は認められ、系統的な割れ目も存在しない。 37.30~37.55m : CM 直上位に比べ岩片がやや軟質化する。 37.55~37.69m : CL 上下端をマンガン脈に囲まれ軟質化が進む。マンガンは砂状を呈する。 37.69~37.81m : D 50~60° の割れ目沿いに風化で砂状化が進む。幅1mm以下の白色粘土脈も伴う。 37.81~38.50m : CL	CL'																										
38				灰褐	Cg			δ	3			38.21m以深は50° 前後の割れ目沿いに風化、砂状化進む。また、少量の幅1~2mmの白色~褐色軟質粘土脈も伴う。																											
					Bg	IVg		bg				38.50~39.14m : CM 一部でゆる割れ目を含むが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。	CM'																										
39					Cg			cg	2			39.14~40.79m : CL 密着度の低い割れ目を多く含む。ハンマーの打撃で大半は分離・細片化する。割れ目には砂や粘土を幅1~3mで挟むことが多い。	CL'																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)												
													試験																										
41			花崗斑岩 明褐灰	明褐灰	灰褐	Cg IVg	γ	2	40.14~40.26m : 50~60° の割れ目に幅1~2mmの軟質粘土脈を挟む。	0	CL'		0	10	20	30	40	50																					
												Dg Vg	δ		40.42m以深は岩片自身の軟質化が進み、割れ目沿いの砂状化も拡大する。	1																							
															40.72m : 50° の割れ目に幅1mmの軟質灰白色粘土を挟む。 40.79~41.83m : CM 一部の割れ目を除き、割れ目に挟在物は分布しない。	9	CM'																						
															41.20m以深は密着度の低い割れ目が多い、一部では開口化する。 41.30m : 60° の割れ目沿いに径2~4mの石英が多く晶出している。	10																							
42													Eg VIg	ε		41.83~41.95m : D 上端60°、下端55°の割れ目に囲まれ砂状化する。割れ目と原岩組織は不明瞭である。			CL'																				
													IVg			41.95~42.78m : CL 割れ目は直下の破砕部の上端境界と同方向の40~50°の割れ目が主体。割れ目の多くに粘土脈や砂の薄層を挟む。長石の一部が白濁化している。		8																					
													Cg Vg	γ		42.36~42.40m : 上下端とも40°の割れ目に囲まれて風化・砂状化する。		10																					
																42.78~42.85m : D 風化で著しく軟質化するが、原岩組織や割れ目の一部は残留する。				CM'																			
43													Eg VIg	δ		●42.85~42.91m : 破砕部 42.85~42.87m : 粘土混じり塊状部 (H)		13																					
													Dg Vg	δ		上端45°で直線的に、下端41°で波打って連続。径1~2mmの石英粒。径5mmの粘土化した岩片主体。やや硬質。上端の幅1~2mmは風化で明黄褐色を呈し、明褐灰色の粘土をフィルム状に伴う。全体としては灰白色を呈する。幅15~25mm。 42.87~42.91m : 粘土混じり岩片状部 (H)		13																					
									上端41°、下端66°でいずれも波打って連続。下端は不明瞭な部分もある。径5~10mmの粘土化~硬さ「D」岩片からなり、岩片間の一部は粘土~幅1mmの白色軟質粘土脈が分布している。明褐灰色を呈する。幅20~30mm。	11																													
44						Cg IVg	γ	2	42.91~43.00m : D 硬質な砂礫状を呈する。原岩組織と割れ目は消滅する。白色粘土を脈状に伴う。 43.00~43.17m : CL 割れ目沿いに砂状化する。白色粘土を細脈状に伴う。 43.17~45.60m : CM 硬さ「C」を主体とするが、一部に硬さ「B」の堅硬な柱状コアも含む。割れ目の一部に幅1~2mmの粘土、砂の薄層を挟在するが、挟在しない割れ目が主体。面は薄く褐色化するものが多いが、劣化はない。一部で仲着割れ目を含むが、密着度は高くハンマーの強打でも分離しないものが主体。	11																													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
														(N値~深度) 図																					
51				明燧灰		Cg				50.00~50.42m: 70° 前後の風化した微細な割れ目が数条波打ちながら連続する。一部はハンマーの強打で分離する。	0																								
										50.56~51.16m: 硬さ「D」主体で、30~50°の割れ目が多く、割れ目沿いに幅1~3mmで薄く砂状化することが多い。岩片自身も上下位に比べ軟質化する。																									
52				花崗斑岩		Dg		δ 3		51.16m, 51.45mの35°, 49°の割れ目に幅1~3mmの褐色粘土を挟む。51.16~52.00m: 硬さ「C」主体。51.35~51.64m: 割れ目が交差し、交差部では砂状部が拡大している。また、白色粘土も少量伴う。	4	100																							
										52.00~52.32m: 径10~20mmの硬さ「D」「C」の岩片と岩片間の硬質な砂状部からなる。																									
53				花崗斑岩		Cg IVg		γ 2		52.32~52.75m: 白濁化した長石が多いが、硬さ「C」と硬質。一部で硬さ「B」も含む。一部では密着度の低い割れ目も含む。	6	100	CL																						
										52.75~53.10m: 岩片自身も硬さ「D」と軟質化する。一部で硬さ「C」が残留する。																									
54				花崗斑岩		Dg		δ 3		53.10~55.82m: 密着度の低い割れ目が多く、一部で開口化する。割れ目の一部は砂状化し、白色粘土を伴うことが多い。橙色を帯びる。53.40~53.60m: 硬さ「B」に近い。割れ目に挟在物は殆んど分布しない。	6	100																							
										53.79~53.81m: 上端23°, 下端39°の割れ目の間が砂状~細片状を呈する。53.85~54.31m: 挟在物を伴う割れ目は少ない。																									
				花崗斑岩		Cg		bg		54.35~54.59m: 割れ目沿いや岩芯の一部が弱くマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	5	100																							
										54.35~54.59m: 割れ目沿いや岩芯の一部が弱くマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。																									

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 →(%) 最大コア長 →cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 掘進 掘進 掘進 掘進	掘進 速度 (cm/時)	孔 径 (mm)	掘 進 速 度 (cm/時)	給 水 圧 (kN・ MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)							
													(N 値)	(深度)																		
(m)	(m)	(m)	図	区分																												
56			に ぶ い 橙	に ぶ い 橙			cg δ cg γ bg γ			55.08~55.55m: 割れ目沿いに砂状化が進み、砂や粘土を挟むことが多い。55.08m: 25°で幅1mmの淡黄色粘土を挟む。粘土直下に幅10mmの砂状部を伴う。 55.82~55.69m: 挟在物を伴わない割れ目が多い。 56.00~56.30m: 73~90°で湾曲して延びる高角度割れ目を境として、下半分側は稜状~岩片状を呈する。	0 50 100	CL'																				
57			灰 黄 褐	花 崗 斑 岩	灰 黄 褐	Eg	Vg cg δ			●56.69~56.72m: 破碎部 56.69~56.72m: 粘土混じり岩片状部(HJ) 上端30°で波打って、下端31°で直線的に連続。径3~10mmの硬さ「D」主体の岩片と岩片間の一部の砂状~粘土化部からなる。下位のHc-1の粘土の近傍では、それに平行~ほぼ平行な微細割れ目も分布する。淡黄~黄灰色を呈する。幅20mm。 56.72m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜31°で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をわずかに(5%以下)含む。軟質。淡黄色を呈する。幅1mm。 56.72~57.29m: D 割れ目沿いに砂状化が拡大し、一部で砂礫状を呈するが、原岩組織や割れ目の一部は残留する。 56.94~56.97m, 57.00~57.02m: マンガン鉱染により黒褐色化する。 57.29~58.89m: CL 40~50°の割れ目が主体で、これらに斜交するものも多い割れ目密集部。砂を主体とする割れ目の挟在物が多い。58.51m以深は斑点状~脈状のマンガン鉱染部が点在する。	0 50 100	D																				
58			灰 褐	花 崗 斑 岩	灰 褐	Dg	Vg cg δ			58.68m・10°で幅1~3mm。58.82m・45°で幅7mmの石英脈が分布する。	0 50 100	CL'																				
59			橙	花 崗 斑 岩	橙	Eg cg Vg	VIg cg cg			●58.89~58.98m: 破碎部 58.89~58.94m: 粘土混じり岩片状部(HJ) 上端20°で直線的に、下端25°で波打って連続。20~30°とこれに直交~斜交する割れ目で径3~5mmに細片化し、硬さ「E」主体の岩片と、岩片間の一部に淡黄~灰白色軟質粘土を挟む。褐色を呈する。幅40mm。 58.94~58.96m: 粘土混じり稜状部(H) 傾斜25°で上下端ともに波打って連続。径2~4mmの石英粒、径5mmの硬さ「D」岩片からなる。やや硬質。にぶい黄褐色を呈する。幅15mm。 58.96~58.98m: 稜混じり粘土状部(Hc-2) 傾斜25°で上端は波打って連続。下端は直線的に連続。径2~3mmの石英粒。硬質岩片を5~10%含む。軟質。オリーブ色帯びる灰白色を呈する。幅15mm。 58.89~59.69m: CL 59.50m以深は粘土を挟むことが多い。 ●59.69~59.75m: 破碎部 59.69m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜52°で上下端ともに直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない。軟質。黄褐色を呈する。幅1mm。 59.69~59.75m: 砂混じり岩片状部(HJ) 上端52°、下端37°でともに直線的に連続。径5~20mmの硬さ「D」「E」岩片と岩片間の砂状部からなる。粘土は分布しない。にぶい褐色を呈する。幅40~60mm。 59.75~60.00m: CL 挟在物を伴う割れ目は少ない。	0 50 100																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ペット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																	
															(N)	(N)	(N)	(N)	(N)																												
61				花崗斑岩							60.00~61.40m : CM 密着度の低い割れ目やゆる割れ目を多く含む。挟在物を伴う割れ目は少ない。 各割れ目と岩芯の一部は弱くマンガン鉱染を受ける。	0	50	100																																	
												61.19~61.23m : 上端30°、下端33°の割れ目の上下端は波打っている。一部砂状化する。マンガン鉱染が見られる。				CM'																															
												61.40~61.67m : CL 割れ目沿いに砂状化が進む。 61.47~61.51m : マンガン鉱染により黒褐色化する。																																			
62												61.67~62.23m : CM 岩片の一部は堅硬な硬さ「B」も含む。割れ目に挟在物はないが、弱くマンガン鉱染を受ける。劣化は伴わない。																																			
												62.23~64.52m : CL 硬さ「D」と「C」が繰り返して分布する。全体に割れ目に砂や粘土脈などの挟在物を挟むことが多い。硬さ「D」の区間は割れ目沿いに砂状化が拡大する部分もある。																																			
												62.82~62.93m : 径5~20mmの硬さ「D」の岩片と岩片間は砂状化し、砂凝塊を呈する。幅1~2mmの軟質白色粘土脈も伴う。 63.03m : 30°の割れ目沿いに幅約10mmの淡褐色粘土、幅1~2mmの淡黄色粘土を挟む。上端側は幅5~15mmでマンガン鉱染を受ける。 63.04~64.17m : 硬さ「C」区間で、硬さ「B」も多く含む。							CL'																												
63											63.60~63.70m : コアチューブ引上げ時の擾乱により角礫状化している。																																				
											64.17~64.52m : 割れ目沿いに砂状化することが多く、割れ目が不明瞭になり、消滅しかかっていることも多い。原岩組織は明瞭に残留する。																																				
64											64.52~66.39m : CM 65.01m以深は硬さ「B」で堅硬となる。全体として割れ目に挟在物は少ない。一部の割れ目沿いでマンガン鉱染を強く受け、黒褐色化するが、劣化は伴わない。 64.66m : 63°の割れ目に幅1~2mmの灰白色粘土を挟む。 64.78~64.84m : 上下端45°の割れ目間及び周辺が明青灰色を呈する。マンガン鉱染が見られる。一部砂状化する。							CM'																													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化状態	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D ↳ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																											
														0	10	20	30	40												50																										
66			+	花崗斑岩	にぶい橙	Cg						CM'																																												
																														灰褐	IVe	bg	γ																							
67			+	にぶい褐	Cg				2		CL'																																													
																																明褐灰	Vg	cg	δ																					
68			+	明褐灰	Eg					D'																																														
																																褐灰																								
69			+	にぶい橙	Cg				3		CL'																																													
																																明褐灰																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)	
														0	10	20	30	40												50
76			花崗斑岩	にぶい橙	Dg	Vg	cg	3		75.05~75.56m: 割れ目の一部に幅1~2mmの白色軟質粘土を脈状に挟む。	CL'																			
		75.46m: 0° で幅3~5mmの建質部が斜交する割れ目を止めて連続する。粘土化などの劣化は伴わない。建質部の上端・下端の割れ目に細粒部は認められない。建質部周辺の岩盤には原岩組織が認められ、建質部と系統的な割れ目も存在しない。								D'																				
		75.80~75.87m: コアチューブ引上げ時の擾乱により径10mm前後の疎状コアを呈する。																												
77			にぶい橙	Eg	Vlg	dg	4	6	76.11~76.23m: 10~20° の低角度割れ目が多い。一部で幅0.5mmの灰白色粘土を挟む。	76.23~76.59m: D	CL'																			
		76.41m以浅は径3~5mmに細片化する。粘土化も伴う。							D'																					
		76.41m以深は大半の割れ目が消滅する。割れ目跡に沿ってマンガンが斑点状に分布する。																												
78			にぶい橙	Dg	Vg	cg	3		●76.59~76.89m: 破砕部	76.59m: 粘土状部 (Hc-1)	CL'																			
		傾斜47° で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をこくわずか (5%以下) 含む。軟質。明黄褐色を呈する。幅1mm。							D'																					
		76.59~76.65m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端47° で、下端55° でともに直線的に連続。マンガン鉱染で黒色化した径1~2mmの石英粒、径3~10mmの粘土化~硬さ「D」岩片を計20~30%含む。軟質。上端側のHc-1の粘土とほぼ平行な細かい割れ目が4条分布する。灰白~にぶい橙色を呈する。幅40~50mm。																												
79			明褐色	Eg				76.65~76.89m: 粘土混じり岩片状部 (Hj)	上端55° で、下端37° でともに直線的に連続。径3~10mmの硬さ「D」~粘土化した岩片と岩片間の粘土化部からなる。76.70mと76.78mに破砕部上端側のHc-1の粘土と平行方向に各々55°、33° のせん断面が分布する。一部でマンガン鉱染を伴う。にぶい橙~灰白色を呈する。	76.89~79.15m: CL	D'																			
		硬さ「D」の岩片主体であるが、部分的に硬さ「C」も含む。割れ目沿いに粘土化と砂状化が進む。特に上位の破砕部直下の76.89~77.00mで粘土化が進む。割れ目はシャープで明瞭なものも多いが、一部で消滅しかかっているものもある。						D'																						
		77.58~77.65m: 径10mm前後の大型の石英斑晶が点在。																												
		77.71~77.77m: 径5~10mmで細片状~塊状な砂状を呈する。	D'																											
		77.79~77.85m: 硬さ「C」と硬化する。																												
		78.05m以深は白色粘土細脈の分布が多くなる。																												
		79.15~85.03m: D	D'																											
		主として変質による粘土化が進み、著しく軟質化している。一部で径5~20mm程度の硬さ「D」の岩片が残留する。全体に原岩組織と割れ目の一部は残留する。割れ目は10~30° の低角度系が主体である。																												
		79.37~79.49m: 上端42°、下端39° の割れ目の間は、岩片状~一部砂状を呈する。																												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
													(N 値 ~ 深度) 図																								
			+	花崗斑岩	明褐灰	V _E cg		δ 3	80.24~80.31m: 幅1mm、長さ10~20mの細脈状にマンガンが密集する。 80.36m以深は硬さ「E」「D」(一部「C」)の岩片と、岩片間の粘土化部からなる。	5 (0)	D'																										
81															80.76~81.68m: 割れ目や岩芯の一部がマンガン鉱染を受ける。	4 (0)																					
82															81.70~82.40m: 岩片間の基質の一部で風化・褐色化が進む。 81.90~84.40m: 表面がマンガンで黒色化した径1~2mmの石英粒が点在する。	3 (0)																					
83															83.30~83.74m: 硬さ「C」の硬質岩片が多く残留する。 83.30~83.50m: 岩片間の砂状~粘土化部が風化で褐色化する。	3 (0)																					
84				灰褐	D _g V _E cg	V _E dg			84.06~84.55m: 10~20°の割れ目沿いに風化で褐色化する。硬さ「D」の岩片が主体。	3 (0)																											
													84.55~84.89m: 砂状化が拡大する。軟質粘土も伴う。岩片部分を除き、原岩組織は消滅する。 84.89~85.61m: CL一部に硬さ「C」の岩片も含むが、割れ目沿いに砂状化する。		CL'																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位試験 (孔内水平膨脹)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ベット	給圧 (kN · r / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)
														0	10	20	30	40											
86			+	花崗斑岩	にふい褐					85.28~85.32m: 緑泥石化し、淡緑灰色を呈する。径0.5mm以下の微細なセリサイト、黄鉄鉱を伴う。		CL'																	
										85.36~85.60m: 高角度割れ目沿いの砂状化が進む。																			
87	54.59	87.18	+	花崗斑岩	褐灰					85.61~91.35m: D 硬さ「D」「C」の岩片と岩片間の粘土化~砂状化部からなり、全体として軟質化が著しい。		D'																	
										85.70m: 15°の割れ目沿いが褐色を呈し、マンガン鉱染が見られる。																			
88	54.83	87.52	+	コア欠如						86.50~86.78m: 40~50°の割れ目沿いに硬さ「C」「D」の岩片が残留する。岩片中には細かい割れ目が多く、ハンマーの打撃で細片化するものが多い。																			
										87.18~91.35m: 強風化による砂状化が拡大し、残留する硬さ「C」「D」の岩片とともに砂状化を呈する。																			
89			+	明褐灰						87.18~87.52mの基質部はスライムである。		D'																	
										88.18~89.05m: 残留する岩片量が多くなり、割れ目も認識できるようになる。																			
89			+	花崗斑岩						89.05~90.14m: 岩片のみ採取され、基質の砂状~粘土状部は掘進時に流失したものと推定される。																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																								
														0	10	20	30	40												50																																																							
96			+		灰褐	Cg		γ			95.50~95.71m: 割れ目から分離し、径10mm前後に細片化する。			0	0	10	20	30	40	50																																																																	
																															明褐灰	Vg		3	cg	δ			95.94~98.05m: 硬さ「D」の岩片状コア主体。所々に硬さ「C」も含む。95.96m: 60°の割れ目に幅1mmの灰白色軟質粘土を挟む。上端側の幅約5mmにマンガン鉱染部を伴う。	2	10	20	30	40	50																																								
																																																											にじい橙	Dg				96.52~97.60m: 30~40°と60~70°の割れ目が交差し前者が後者に止められる。60~70°の割れ目に細粒部は認められない。割れ目周辺の岩盤に原岩組織が認められる。	2	10	20	30	40	50															
97			+		にじい橙			3	δ	97.58~97.69m: マンガン鉱染が進み黒褐色化する。97.69~97.78m: 硬さ「C」の岩片中に硬質な幅1~2mmの白色粘土が脈状~径2~3mmの斑点状で分布する。	6	10	20	30	40	50																																																																					
																																		98			+		Cg	Vg			98.02m: 30°で幅2~5mmの石英脈を挟む。一部で褐色割れ目化する。98.05~98.92m: 硬さ「C」主体。割れ目の面は褐色化するものが多い。割れ目沿いに軟質化する部分もある。98.20m: 50°の割れ目に幅3~5mmの褐色粘土を挟む。	7	10	20	30	40	50																																				
99			+		灰褐	Dg	Vg	γ	2	98.92~99.50m: 硬さ「D」主体。全体に軟質化するが風化、変質は弱い。	2	10	20	30	40	50																																																																					
																																	99			+		Eg	Vg	dg	ε	●99.50~99.68m: 破砕部 99.50~99.56m: 粘土混じり岩片状部 (H) 上端43°で直線的に、下端38°で波打って連続。上端とほぼ平行な数条の割れ目と、これに直交~60°斜交する割れ目で径5~10mmの硬さ「E」の岩片に細片化する。岩片間に幅1~3mmの白色軟質粘土が脈状に分布する。一部にマンガン鉱染伴う。明黄褐色を呈する。幅45mm。 99.53mには上端と平行で直線的な幅1mmの灰白色粘土を挟む。 99.56~99.57m: 雑混じり粘土状部 (Hc-2) 傾斜38°で上下端とも波打って連続。径1~3mmの一部マンガン鉱染で黒色化した石英粒を10%程度含み、フィルム状の細粒部が挟んでいる。やや硬質。灰白色を呈する。幅5~10mm。 99.57~99.68m: 砂混じり岩片状部 (H) 上端38°で波打って、下端37°で直線的に連続。上位のHc-2の粘土と平行な数条の割れ目とこれに直交~60°斜交する割れ目が多く、径5~20mmに岩片化する。岩片間には粘土は殆んど分布せず。砂状部を挟む。マンガン鉱染のため黒色化し、褐色色を呈する。幅85mm。 99.68~100.50m: CL 硬さ「D」主体。	2	10	20	30	40	50																																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチュール / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)										
															(N値~深度) 図																									
101			+	花崗斑岩	にふい橙	Dg Vg cg				γ 2	100.00~101.00m: 密着度が低い割れ目~ゆ着割れ目を多く含む。開口割れ目化するものもある。	0 50 100	CL'		(N値~深度) 図																									
											灰褐				Dg Vg cg			γ 2	5 (4)															100						
																																			Cg Wg bg			CM'	8 (10)	100
102			+	花崗斑岩	にふい橙	Dg Vg cg				γ 2	101.45~101.78m: 幅1~2mmの白色~黄色粘土が脈状に多く分布する。	0 50 100	CL'		(N値~深度) 図																									
											灰褐				Dg Vg cg			γ 2	8 (10)														100							
																																		Cg			CL'	12 (12)	100	
																																								Dg Vg δ 3
103			+	花崗斑岩	にふい橙	Dg Vg cg				γ 2	101.78~102.56m: CL硬さ「C」主体で、割れ目沿いに砂や粘土を挟む。	0 50 100	CL'		(N値~深度) 図																									
											灰褐				Dg Vg cg			γ 2	8 (10)														100							
																																		Cg Wg bg			CM'	8 (10)	100	
																																								Bg Wg bg
104			+	花崗斑岩	にふい橙	Dg Vg cg				γ 2	102.56~104.28m: CM硬さ「B」で堅硬である。挟在物を伴う割れ目は少ない。短柱状~柱状コアには幅1~2mmの白色筋状のゆ着割れ目が多く分布するが、ハンマーの強打で分離しない。一部で幅2~3mmで砂状~細片状化部を挟むものもある。	0 50 100	CL'		(N値~深度) 図																									
											灰褐				Dg Vg cg			γ 2	8 (10)															100						
																																			Cg Wg bg			CM'	8 (10)	100
104			+	花崗斑岩	にふい橙	Dg Vg cg				γ 2	103.24m, 103.48mのいずれも65°の割れ目は交差する割れ目を止め、前者で幅2~3mm、後者で幅2mm程度の砂を挟む。マンガンも伴う。65°の割れ目沿いの砂は局所的で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	0 50 100	CL'		(N値~深度) 図																									
											灰褐				Dg Vg cg			γ 2	8 (10)														100							
																																		Cg Vg cg δ 3			CM'	8 (10)	100	
																																								Bg Wg bg
104			+	花崗斑岩	にふい橙	Dg Vg cg				β	103.94~104.00m: 風化で淡褐色化し軟質化する。	0 50 100	CL'		(N値~深度) 図																									
											灰褐				Dg Vg cg			β	8 (10)													100								
																																	Cg Vg cg δ 3			CM'	8 (10)	100		
																																							Bg Wg bg	
104			+	花崗斑岩	にふい橙	Dg Vg cg				β	104.28~105.88m: CM堅硬で塊状。一部で白い筋状のゆ着割れ目が分布するが、密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。104.28m、104.61mに70°の割れ目が分布し、前者は幅2mmの砂を挟み、マンガンも伴う。	0 50 100	CL'		(N値~深度) 図																									
											灰褐				Dg Vg cg			β	8 (10)														100							
																																		Cg Vg cg δ 3			CM'	8 (10)	100	
																																								Bg Wg bg

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・rpm)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)		
														(N 値 ~ 深度) 図																	
			+	花崗斑岩	褐色	Bg	β			105.14m: 67° の割れ目沿いに風化で薄く褐色化するが劣化は伴わない。	0 50 100																				
										105.33~105.52m: 割れ目沿いに弱くマンガン鉱染を受ける。																					18 [81]
106										105.88~108.71m: CM 岩片は堅硬であるが、全体に割れ目沿いに風化で褐色化する。叩着割れ目も多く、褐色化したものはハンマーの強打で分離・細片化し易い。開口化するものも多い。一部で砂や白色粘土の薄層を挟むが、挟在物のない割れ目が主体。																					10 [10]
										106.00m, 106.16m: 73° の割れ目が分布し、前者には幅2~5mmの砂を挟み、マンガンを伴う。後者には幅1mmの砂を挟む。																					
					Cg	β			106.32~106.60m: 潜在割れ目が約10mm間隔で密に分布し、全体が軟質化する。一部の潜在割れ目は密着度が低い。																						
107			107.30m以深では径2~3mmの緑泥石の暗緑灰色斑点が点在する。割れ目の面も緑灰色を呈することが多い。	7 [7]																											
					IVg	bg	γ	2	107.60~108.60m: 径5~10mmの大型のかり長石の斑晶を多く含む。																						
108			108.68~108.71m: 割れ目沿いに細片化する。																												
					Bg	β			108.71~112.27m: CM 堅硬・塊状。白い筋状の叩着割れ目を多く含むが、大半が周囲と同化し、密着度が高い。ハンマーの強打でも分離しない。割れ目に挟在物は分布しない。割れ目沿いはごく薄く風化で褐色化するが劣化はない。																						
109													14 [26]																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コーア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ベット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
														0	10	20	30	40												50							
		111	花崗斑岩	褐灰						110.11~110.95m: 50~60° とこれに直交~斜交する10~30° の割れ目やゆる割れ目が多い。ゆる割れ目は密着度が高い。前者の割れ目は後者の割れ目の一部を止めており、一部は後者の割れ目が前者の割れ目と横断している。50~60° の割れ目には細粒部は認められない。割れ目周辺の岩盤に原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																											
		112								IVe	β	2	111.14m: 76° の割れ目に幅1~2mmの緑泥石粘土~シルトを挟む。径0.1mmの微かなセリサイトも点在する。 111.31~111.34m: 割れ目沿いに薄く風化・褐色化する。	12 (12)	CM'																						
		113								Bg	β		112.00~112.27m: 70~80° とこれに直交する20~30° のゆる割れ目が約10mm間隔で密集するが、密着度が高くハンマーの強打でも分離・細片化しない。 112.27~113.27m: CM 堅硬であるが、上下位に比べ割れ目がやや多くなる。ゆる割れ目も多く、112.27~112.32mを除き、密着度は高い。割れ目には挟在物は分布せず、面も未風化・新鮮なものが主体である。一部の割れ目で緑泥石が幅1mm程度で砂状~シルト状を呈する。	11 (10)																							
		114								IIIe			113.27~114.41m: CH 堅硬・塊状。割れ目は少ないが、70~80° の高角度系が主体。ゆる割れ目も同系統で密着度が高い。	20 (2)	CH'																						
										114.24m: 80° のゆる割れ目沿いに径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が点在する。 114.40m以深の割れ目の一部は薄く淡褐色化する。軟質化、粘土化などの劣化は伴わない。 114.41~115.12m: CM 70~80° の割れ目が多く、114.89~115.12m間は上端幅5mm、下端幅30mmで砂状化~片状化する。	22 (4)	CM'																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)			
													(N 値 ~ 深度) 図																		
						Dg Vg cg δ 3			120.09~120.10m: 60° で幅10~15mmの緑泥石化で軟質化する。 120.10~125.90m: CH 堅硬。塊状。割れ目に挟在物は分布せず。面もほぼ未風化・新鮮である。長石の白濁化は殆んど認められない。	0 50 100	CL'		0 10 20 30 40 50																		
121																															
122									121.60m: ゆる割れ目が開口割れ目化する。																						
123				花崗斑岩		Bg IIIg bg β 2			122.36m: 65° の割れ目の一部に黄鉄鉱が晶出する。 122.61m: 60° の割れ目に幅2mmの褐色砂を挟む。	0 50 100	CH'																				
124									123.35~125.06m: 80~90° の割れ目が連続する。 123.63~123.67m: 割れ目沿いに片状化するが、岩片は硬質で、砂や粘土化など劣化は伴わない。	0 50 100																					

標 尺	標 高	深 度	柱 状 図 分	岩 種	色 調	硬 軟	割 目 の 状 態	風 化	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D └┘ [%]	岩 級 区 分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘 進 進 度 月 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔壁保護	コ ア チ ュ ー ル ノ ン ベ ッ ト	給 水 量 (L / 分)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	排 水 量 (L / 分)			
													(N 値 ~ 深 度) 図																	
126			+	花崗斑岩	褐灰	Bg	III _G	β	125.00m以深はゆ着割れ目は殆んど分布しない。																					
127									125.90~128.05m: CM 堅硬であるが、ゆ着割れ目から開口割れ目化したものが多い。割れ目に挟入物は挟まず、ほぼ未風化で新鮮である。ほぼ全区間にわたり、60~90°のゆ着割れ目沿いに割れ目化し、一部はその周辺が片状化する。																					
128									127.15~127.58m: 80~90°の開口化したゆ着割れ目数本が約10mm間隔で平行に分布する。全幅約50mmにわたり片状化するが、砂状化や粘土化などの劣化は伴わない。																					
128									128.05~128.78m: CM 堅硬。128.05~129.00mにゆ着割れ目が開口割れ目化した80~90°の割れ目が波打ちながら連続するが、一部を除き片状化は認められない。																					
129									128.78m: 33°の割れ目に砂や径2~3mmの細片化岩片を幅1~4mmで挟む。 128.78~129.47m: CM 白い筋状のゆ着割れ目が多いが、大半は密度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。割れ目に挟入物は殆んど分布しない。 129.47~129.84m: CL 密度度の低い潜在割れ目が多く分布する。挟入物は殆んど分布しない。																					
			<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> 灰白 E_G VI_G dg 灰褐 C_G V_G bg </td> <td style="width: 50%;"> 3 2 </td> </tr> </table>	灰白 E _G VI _G dg 灰褐 C _G V _G bg	3 2	●129.84~129.91m: 破砕部 129.84~129.85m: 粘土状部 (Ho-2) 傾斜70°で上端は直線的に、下端は波打って断続的。径1~3mmの石英粒、径2~3mmの岩片を10~20%含む。軟質。緑灰色を呈する。幅2~5mm。一方、上端には暗緑灰色の幅0.5mmのフィルム状粘土を挟む。 129.85~129.91m: 粘土質岩片状部 (Hj) 上端70°で波打って、下端60~70°で少し湾曲して連続。径2~5mmに細岩片化し、岩片間は粘土~砂状化する。粘土量は多い。オレンジ灰色を帯びた灰白色を呈する。幅25~35mm。 129.91~130.57m: CL 岩片は堅硬であるが、高角度割れ目やゆ着割れ目が1~2cm間隔で分布し、片状化する。割れ目沿いで薄く砂状化するものがある。																								
灰白 E _G VI _G dg 灰褐 C _G V _G bg	3 2																													

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └─ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) /孔壁保護	コアチューブ /ピセット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)												
															(N値~深度) 図																											
131				灰褐	Ⅱg	Vg	cg	γ	2		130.57~131.51m: CM 白い筋状のゆる割れ目が多いが、密着度が高く、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。 130.75~130.90m: 幅0.5~5mmの白色方解石が脈状に分布する。	CL'																														
132				灰褐	Ⅲg						131.51~132.41m: CH 堅硬・塊状でほぼ新鮮。白色筋状のゆる割れ目が多いが、周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石斑点が点在する。全体が緑泥石化の変質を受けるが、軟質化~粘土化など劣化はない。	CH'																														
133				灰褐	Bg		bg	β	2		132.41~134.33m: CM 岩片は堅硬であるが、一部で密着度の低い潜在割れ目が多く、径30mm前後に分離・細片化する部分もある。ほぼ未風化・未変質で下端部を除き割れ目に挟在物は分布しない。 132.76~133.60m: ゆる割れ目沿いに径30mm前後に分離し易いが、砂や粘土は挟まない。	CM'																														
134				灰褐	Ⅳg						133.39~133.85m: 径2~3mmの暗緑色の緑泥石を斑点状に伴い、石基も淡緑色化し、明オリブ灰色を呈する。区間全体が緑泥石化する。	CM'																														
				灰褐							134.33~136.33m: CM 堅硬・塊状で未風化・未変質。ゆる割れ目は少量分布するが、周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。 134.35m: 70~80° で幅1~2mmの暗緑灰色の緑泥石粘土と其上端に幅15mmの径5~10mmの岩片を挟む。 134.56~134.70m: 緑泥石化により淡緑色化し、オリブ灰色を呈する。 134.85m以深は所々に径10mm前後で橙色のカリ長石が露出する。																															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
													0	10	20	30	40												50		
136			+	明褐灰		IV _E			135.76m: 80° の割れ目は交差する割れ目の一部を止めている。80° の割れ目に細粒部は認められず、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 136.09m・60°、136.33m・65°、136.56m・60° で前2者は幅1~2mmの緑泥石付着、後者は石英脈が密着して分布する。粘土化や砂状化は伴わない。	0 50 100																					
137				灰褐		B _g	B _g	β	2	137.52~137.62m: ベグマタイトで、晶洞中に石英、橙色のカリ長石、緑泥石などが晶出する。	0 50 100																				
138				花崗斑岩		III _E				138.35m、138.50m: 砂岩割れ目沿いに開口割れ目化する。	0 50 100																				
139				緑灰						139.02~139.21m: 緑泥石により緑灰色化する。 139.37m: 70° で幅2~3mmの脈に緑泥石と石英が共生して分布する。径0.1mmの微細な黄鉄鉱も点在する。 139.66~139.96m: CM割れ目がやや多くなる。挟在物は分布しない。 139.96~140.39m: CH	0 50 100																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
													(N 値 ~ 深度) 図																
141			+	明褐灰	緑灰	IIIg	IIIg		140.13m: 65° の割れ目沿いの一部が細片化するが、軟質化など変化はない。	0	OH'		0	10	20	30	40	50											
									140.39~140.61m: CM 70° の割れ目沿いに一部片状化する。砂や粘土は挟まない。																				
142			+	灰褐	Bg	Bg	β 2		140.61~141.97m: CH 堅硬・塊状。一部でゆ着割れ目が多いが、密着度が高く、周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。	16	OH'		0	10	20	30	40	50											
									141.40~142.00m: 径20mm前後の斑模様状に緑泥石化した淡緑灰色部が分布する。																				
143			+	緑灰	IVg	IVg			141.97~147.08m: CM 割れ目はやや多いが、岩片は堅硬。白色筋状のゆ着割れ目が多いが、密着度が高い。一部で開口割れ目化する。	14	CM'		0	10	20	30	40	50											
									142.32~142.43m: 50° 程度の割れ目が交差し、径20~50mm程度に岩片化するが、砂や粘土は挟まない。																				14
144			+	灰褐	IVg	IVg			142.70~142.76m: 緑泥石により淡緑灰色を呈する。	10	CM'		0	10	20	30	40	50											
									143.48~144.50m: 径3~5mmの橙色のかり長石の斑晶が上下位よりも多く晶出する。																				10
			+	緑灰	IVg	IVg			143.80~144.00m: 割れ目間隔20~70mmで45° のゆ着割れ目沿いに分離し開口割れ目化する。	8			0	10	20	30	40	50											
									144.08~145.44m: 40~60° のゆ着割れ目が密集する。多くが開口化しやすい。																				8

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
														(N 値)	(値)														
			花崗斑岩	Iv _g	灰褐	Bg	bg	β	2	<p>145.37m: 50° 割れ目沿いに幅15mmが径2~10mmに細片化するが、岩片は硬質である。砂や粘土は挟まない。 145.45m付近、145.90m付近は、60~80°の割れ目が発達する。</p>		CM'																	
	146	<p>145.88m: 70° のゆる割れ目沿いに幅約10mmで緑泥石により緑灰色を呈する。</p>																											
	147	<p>146.56~147.08m: 60~70° のゆる割れ目沿いに分離し開口割れ目化する。各割れ目面はほぼ未風化・新鮮で挟在物は分布しない。</p>																											
	148	<p>147.08~150.59m: CH 堅硬・塊状。開口割れ目は殆んどがゆる割れ目が開口したものである。残留するゆる割れ目は高円と同化し、密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。各割れ目面に挟在物は殆んど分布せず、未風化で新鮮である。</p>																											
	149	<p>148.78m: 65° の割れ目面に幅1mmの緑泥石の硬質な粘土がフィルム状に付着する。</p>																											
	149	<p>149.20~149.36m: 割れ目がやや多いが、劣化は伴わない。</p>																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
													0	10	20	30	40												50	
151			+	にぶい褐	緑灰	Bg	β		150.04~150.59m: 50~80°で幅0.5m以下の緑泥石細脈が多く分布する。大半は周囲と同化し、開口割れ目化していない。	0 50 100	CH'																			
									150.41m: 石英脈中に幅10mmの白色岩片を硬状に伴う。																					
									150.59~151.57m: CM 20~40°と70~80°の割れ目が交差し、割れ目がやや多くなる。																					
									151.21m: 85°の割れ目の一部に幅2mで径2mmの細片化部を挟む。																					
152			+	にぶい褐	緑灰	Bg	β		151.47~151.52m: 緑泥石化と珪化が進み硬化する。	0 50 100	CH'																			
									151.50~151.52m: 石英脈に径0.5mmの暗赤褐色鉱物を伴う。																					
									151.57~152.23m: CH 堅硬・塊状。割れ目やゆる割れ目は幅0.5mm程度に緑泥石化するが、ゆる割れ目の大半は密着度が高く、ハンマーの打撃で分離・細片化しない。一部は開口化する。粘土や砂は挟まない。																					
153			+	にぶい褐	緑灰	Bg	β		152.23~153.85m: CH 堅硬・塊状で割れ目はわずかに分布する。割れ目に挟み物は分布しない。割れ目やゆる割れ目の一部は割れ目に緑泥石化するが硬質である。	0 50 100	CH'																			
									152.50~152.67m: 上下端を幅10~20mmの石英脈に囲まれた範囲に岩片が多巻きされる。岩片に移動や回転は見られない。岩片と基質は同化し、硬質化する。岩片の輪郭が不鮮明で虫食い状になっており、岩片や石英脈に系統的な配列は見られない。岩片と周辺の岩盤、石英脈は完全にゆる着する。																					
154			+	にぶい褐	緑灰	Bg	β		153.20m付近に径10mmの大型の褐色のかり長石の斑晶が点在する。	0 50 100	CH'																			
									153.25~153.60m: 60~80°の高角度な白色筋状のゆる割れ目が数本分布するが、密着度が高く、開口化しない。																					
									153.85~154.60m: CH 堅硬・塊状。																					
			+	にぶい褐	緑灰	Bg	β		154.42~154.60m: 緑泥石化が進むが硬質である。上端は30~70°の割れ目が交差し片状化するが、微細な黄鉄鉱を伴う以外は粘土、砂など挟まない。	0 50 100	CH'																			
									154.60~156.18m: CH 堅硬・塊状で割れ目は少ない。155.25m以深で60~90°の高角度の白色筋状のゆる割れ目が多いが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。																					

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟	コ ア 形 状	割 れ 目 の 状 態	風 化 化 質	記 事	コ ア 採 取 率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └─ [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測 定 月 日	(標準貫入) 試験		原 位 置 試 験 (孔内水平距離)	室 内 試 験	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ブ / ペ ッ ト	給 水 量 (L/分)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)							
														(N 値 ~ 深 度) 図	(N 値)																	
156										155.25m : 70~80° の割れ目で交差する一部のゆ着割れ目が止まっている。70~80° の割れ目に細粒部は認められない。周辺の岩壁に原岩組織が見られ、系統的な割れ目も存在しない。	0			0 10 20 30 40 50																		
157										155.77~155.80m : 一部で緑泥石化し径30mmの斑状に緑灰色化する。軟質化は伴わない。 156.00~156.14m : 白色筋状のゆ着割れ目の一部が剥離しかかっているが、よく密着する。 156.10~156.24m : CH 堅硬、塊状、一部に長さ20cm以上の柱状コアも含むが、長さ10~20cm (III) が主体。割れ目やゆ着割れ目の一部は緑泥石化するが、よく密着する。 156.50~156.90m : 18~80° の割れ目が交差し、一部で片状化するが、挟在物は分布しない。																						
158										157.00m以深は20~40° の割れ目が主体。 157.35~157.89m : わずかに石基も緑泥石化し緑灰色を帯びる。																						
159										157.83~157.89m : 30° 程度で径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が弱く脈状に点在する。 158.20~158.30m : 径10mm前後の大型なかり長石が点在する。 158.54mと158.62mに70~75°、幅1~2mmで石英脈が分布する。よく密着し分離しない。 158.54m以深は石基も緑泥石化が進み、暗緑灰色を呈する。軟質化は伴わず、堅硬である。 159.24~160.40m : CH 堅硬、塊状で割れ目が少ない。緑泥石化により暗緑色や白色筋状のゆ着割れ目を多く含むが、堅硬で密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。割れ目に挟在物も分布しない。全体に緑泥石化が進み、暗緑灰色を呈するが、緑泥石化の弱い部分は母岩の褐色が残留する。全体的に色調が斑様を呈する。 159.45m : 60° の割れ目が交差する65° のゆ着割れ目を横断する。60° の割れ目に細粒部は見られない。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D ↳ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
														(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)																	
161			花崗斑岩	暗緑灰	IIg					160.40~161.45m: CM 堅硬、塊状。上下位に比べ割れ目がやや多い。割れ目に挟在物は分布しない。	GH'																					
				にぶい橙	IVg						161.10~161.69m: 径5mm前後の大型な暗緑色の緑泥石を斑点状に含む。161.10~161.24mは石基も緑泥石化が進み、緑灰色を呈する。	CM'																				
				緑灰							161.45~166.65m: CH 堅硬、塊状でコア長20cm以上の長柱状コアが主体。一部に幅1~2mmの白色筋状の主に高角度のゆる割れ目が発達するが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。ゆる割れ目には石英を脈状に挟むものも多い。橙色のかり長石が濃集する部分も含み、にぶい橙色などの橙色系を呈する。緑泥石化は割れ目やゆる割れ目沿いでは殆んど分布せず、径2~5mmの斑点状に晶出する。	GH'																				
162				灰褐	IIIg						161.70~161.90m: 60°の割れ目交差部の一部で片状化するが、岩片は堅硬で、粘土や砂を挟まない。 162.12~162.18m: 径10mm前後の大型な橙色のかり長石が点在する。	GH'																				
163				にぶい橙	Bg	Bg	β	2		162.46~162.57m: 80~90°のゆる割れ目が5~20mm間隔で平行に分布する。密着度が低く、ハンマーの強打で分離する。	GH'																					
164				灰褐	IIg					163.50~163.60m: 高角度割れ目が交差し、一部で片状化するが、岩片は堅硬で、砂や粘土は挟まない。面の一部に黄鉄鉱が晶出する。	GH'																					
				にぶい橙						164.00~164.30m: 径10mmの大型の橙色のかり長石と同径の緑灰色の緑泥石が混在する。																						
				灰白						164.50m: 径50mmの石英の晶洞で、長石などの2次鉱物を伴う。																						
				にぶい橙						164.94m: 70°の密着割れ目で、上端側に幅20mmの石英脈が緑泥石を伴って分布する。上下端境界に劣化はない。 164.95~165.89m: 橙色のかり長石の含有量が上下位に比べ多くなり、にぶい橙色などの橙色系を呈する。																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・rpm)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)	
													(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)												
			花崗斑岩	にがい橙					165.32m : 70° の割れ目は165.32mで径8mmの橙色のかり長石を横断する。また、交差する割れ目の一部も止めている。割れ目に細粒部は認められず、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が見られる。系統的な割れ目も存在しない。	46	CH'															
166				灰褐	IIg				165.80~166.10m : 径10~20mmの石英が多く晶出する。一部は他形の結晶型を示すため熱水変質で緑泥石と共に晶出した2次石英である。	95																
				褐灰	IIIg				166.44~166.47m : 径10mmの斑状~長さ20~30mm・幅5mmのレンズ状で石英が晶出する。 166.65~167.21m : CH 一部で高角度割れ目がやや多いが、岩片は堅硬で、粘土や砂などの挟在物は分布しない。	60																
167				暗緑灰	Bg	bg	β	2	167.00m以深は緑泥石化が進み、暗緑灰色を呈する。	21																
				灰褐	IVg				167.21~168.22m : CM 白色筋状のゆる割れ目が交差し岩片状に砕けているが、岩片は堅硬で、挟在物は分布しない。	34		CM'														
168				暗緑灰	IIg				168.22~169.66m : CH 堅硬、塊状で、コア長20cm以上の長柱状コアも含むが、10~20cmの柱状コアが主体。白色筋状のゆる割れ目も含むが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。全体に緑泥石化し、径2~3mmの暗緑灰色の斑点状に晶出して点在する。割れ目やゆる割れ目沿いに分布するものは少ない。緑泥石化が強い部分は暗緑灰色を呈する。割れ目に粘土、砂などの挟在物は分布しないが、一部で緑泥石化や黄鉄鉱の晶出が認められる。	25																
169			灰褐					169.19~169.41m : 緑泥石化が進み、暗緑灰色化する。軟質化は伴わず堅硬である。 169.66~172.69m : CH 堅硬、塊状で割れ目が少ない。一部に白色筋状のゆる割れ目が分布するが、密着度が高く、分離しない。 169.67~170.22m : 径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が斑点状に多く晶出する。	18		CH'															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記	事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級	区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)												
																(N値~深度) 図																											
171					灰褐 褐灰						170.20~170.65m: 60~70° のゆる割れ目が数本分布するが、密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 171.00~171.08m: 径10mmの大型の橙色のかり長石が点在する。 171.29m: 35° と87° の割れ目が交差するが、交差部周辺は片状化しない。																																
172				花崗斑岩	灰褐	Bg	bg	β	2		171.85m: 34° と74° の割れ目が交差するが、交差部周辺は片状化しない。 172.32~172.53m: 径2~3mmの暗緑灰色の綠泥石が幅0.5~1mmの石英細脈を伴って、斑点状に晶出、点在する。																																
173					にぶい褐						172.69~174.13m: CH 堅硬、塊状でコア長20cm以上の長柱状コアも含むが、10~20cmの柱状コアが主体。一部で綠泥石化し、割れ目やゆる割れ目に沿って細脈状~径1~3mmの斑点状に晶出する。割れ目面に砂や粘土は挟まない。細脈部に石英を伴うこともある。																																
174					褐灰						173.66~173.73m: 密着度の低い潜在割れ目が10~20mm間隔で分布し、ハンマーの強打で分離・細片化するが、粘土や砂など挟入物は分布しない。 173.93m: 43° の割れ目は径5mmの橙色のかり長石を横断する。また、43° の割れ目と交差する2条の高角度のゆる割れ目が見られる。割れ目に細粒部は認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が見られ、系統的な割れ目も存在しない。 174.13~175.55m: CH 堅硬、塊状で一部の割れ目交差部でコア長約10cmに片状化するが、コア長20cm以上の長柱状コアが主体。一部に白色筋状のゆる割れ目を含むが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。上位割りに比べ綠泥石化は弱くなる。																																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN / rpm / MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)				
														0	10	20	30	40												50			
		176	花崗斑岩	褐灰				IIg	β	175.15~175.22m: 70° 程度の割れ目が交差し片状化するが、岩片は硬質で割れ面に挟在物は分布しない。																							
										175.45~175.71mは片状化するが、コアチューブ引上げ時の擾乱による可能性が高い。岩片は硬質で挟在物は分布しない。面の一部は赤褐色化し、断片的に露肌も認められる。赤褐色部は褐鉄鉱である可能性がある。割れ目に細粒部は認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。																					175.55~176.50m: CH 堅硬。上下位に比べ割れ目がやや多いが、コア長10~20cm (III) が主体。ゆき割れ目も含むが、大半は密着度が高く、ハンマーの打撃で分離しない。		
										176.50~176.78m: CM 割れ目が交差し短柱状~一部岩片状を呈する。																							
		177		灰白	Cg	IVg	γ	176.59~176.62m: 30° の割れ目沿いに風化 (γ) し、軟質化 (D) する。砂状~粘土状部は挟まない。	176.78~178.15m: CH 堅硬、塊状でコア長20cm以上の棒状コアが主体。一部に含まれるゆき割れ目も密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。上位に比べ緑泥石化が進み、径2~5mmの暗緑灰色の斑点状~幅0.5mmの細脈状で分布する。細脈状のものは大半が周囲とよく密着し、開口化しない。	CH'	177.65m: 35° で幅2~3mmの石英脈が分布する。周囲と同化する。																						
				178.31~178.39m: 上端75°、下端70° の割れ目に囲まれ幅25mmで径5~10mmに細片化する。幅25mmでごく薄く砂状化する部分がある。上端面に緑泥石がフィルム状に付着する。																													
		178		褐灰	Bg			β	178.45m以深はゆき割れ目が多いが、密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。																								
			179.15~180.00m: CM																														
		179						IVg		179.37~179.68m間の一部は15~57° の割れ目が交差し片状化するが、岩片は硬質で、面は未風化・未変質で挟在物も分布しない。一部でわずかに緑泥石がフィルム状に付着する。ゆき割れ目の多くは開口割れ目化する。																							
		120.22	180.00																														

孔番 : H27-B-3

深度 0.00m ~18.00m



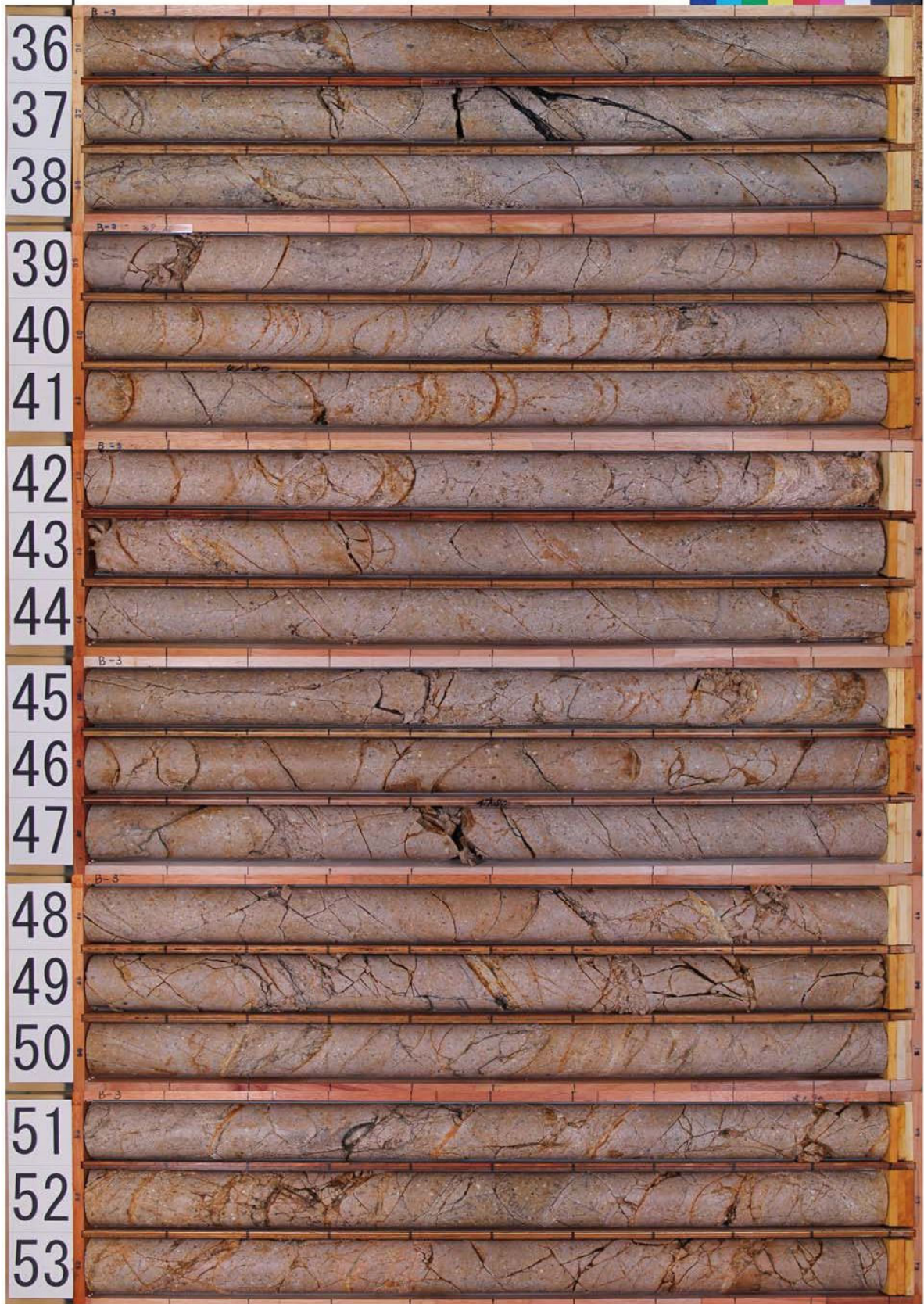
孔番 : H27-B-3

深度 18.00m ~ 36.00m



孔番 : H27-B-3

深度 36.00m ~ 54.00m



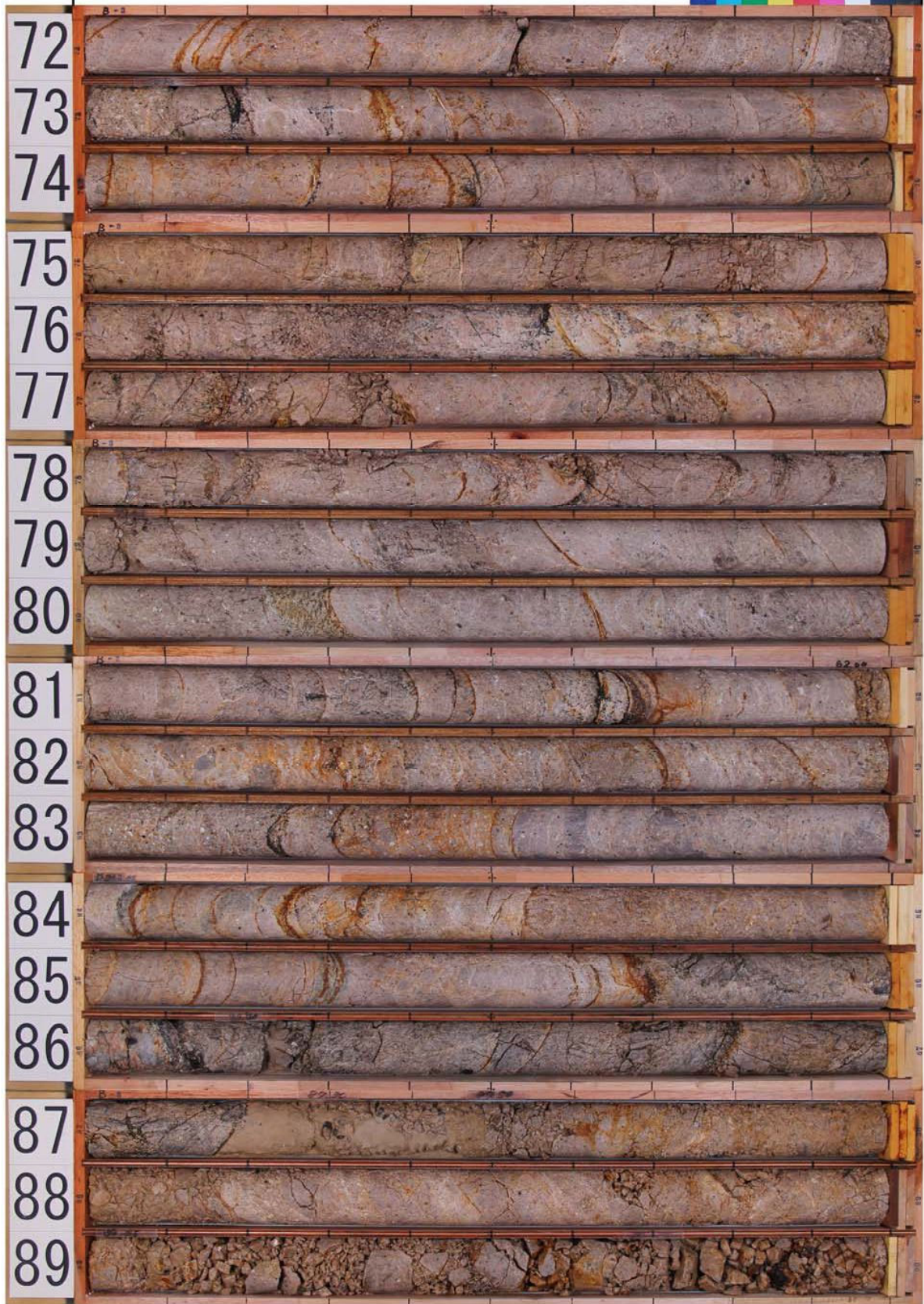
孔番 : H27-B-3

深度 54.00m ~ 72.00m



孔番 : H27-B-3

深度 72.00m ~ 90.00m



孔番 : H27-B-3

深度 90.00m ~ 108.00m



孔番 : H27-B-3

深度 108.00m ~ 126.00m



孔番 : H27-B-3

深度 126.00m ~ 144.00m



孔番 : H27-B-3

深度 144.00m ~ 162.00m



孔番 : H27-B-3

深度 162.00m ~ 180.00m



余白

H27-B-4

余白

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	硬軟 状	割れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D ┌ [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測 定 日 月	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位 置 試 験 (孔内水平距離)	室 内 試 験	掘 進 日 時	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) 孔 壁 保 護	コ ア チ ュー リ ン グ	給 圧 (kN · MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)				
													0	10	20	30	40												50			
									5.73~6.00m : 基質はやや流失済み。																							
6				明黄褐					6.30~7.00m : 礫混じり砂粗砂が主体となる。花崗岩類の径5~20mmの角礫を5%以下で含む。極めて少量の径10mm以下の貫岩の角礫を含む。上位に比べて良く締っている。																							
7				明褐灰					7.00~7.45m : アブライトの巨礫																							
8				盛土					7.45~13.75m : 礫混じり砂~砂質礫径2~70mmの花崗岩類。黒灰色の貫岩の角~亜円礫を5%以上含む。基質は粗粒砂~細礫からなり、やや締まっている~締っている。																							
9				明黄褐																												

標 尺 (m)	標 高 度 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) / 測 定 日 月	標準貫入) 試験					原 位 置 置 試 験 (孔内水平距離)	室 内 試 験	掘 進 日 月	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュー プ / ビ ット	給 回 送 水 量 (MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)					
													(N 値 ~ 深度) 図																				
				盛土	明黄褐				10.15m: 幾分炭化した長さ100mmの木片を含む。 11.03~11.52m: 含有礫は上下位に比べて小さくなる。 12.05~12.20m: 花崗斑岩の大礫を含む。 12.24m: 木片混じる。 12.51~12.63m: 幾分炭化した木片混じる。 13.65~13.75m: 木片混じる。13.75m付近に合板を含む。	0 50 100																							
		-2.77 13.75		花崗斑岩	に い い 黄 橙	Dg Eg	dg ε	2	13.75~14.00m: 花崗斑岩堆積物との境界は45°で明瞭。所々、斑晶が少なくアプライト様を呈する部分を含む。 13.75~14.67m: 風化が著しく、割れ目の多くは不鮮明となる。 14.24m付近、65°の割れ目に沿ったマンガンの汚染が顕著である。 14.53m付近、頁岩礫を3個含む。上部からの崩壊物である。 14.67~15.49m: 風化は若干弱くなり、割れ目のほとんどが認識できるようになるが、コアは、軟質で脆い。割れ目に沿った薄い白色変質脈が見られるものがある。	0 (0) 14 (0)	D' QL'																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	試験 (標準貫入) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ベット	給回送水圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
															(N 値)	(N 値)	(N 値)	(N 値)	(N 値)																			
		16	花崗斑岩	にぶい橙		Dg	Vg	cg			15.06m, 15.09mにはそれぞれ43°, 55°の割れ目沿いに幅1~3mmのマンガンを含む。 15.30m以深は20°程度の低角度の割れ目が優勢。風化により割れ目沿いは劣化する。砂~シルト状の灰白色の細粒物が見られる。コアも軟質である。 15.49~15.62m: 礫状コアを呈する。 15.62~15.91m: 30°程度の割れ目沿いの劣化が著しく脆弱である。																											
				明黄橙																																		
				オリーフ黄			Eg	Vg	dg			●15.91~16.36m: 破砕部 15.91~16.33m: 粘土混じり礫状~粘土質礫状部 (Hj) 上端72°でやや湾曲して連続。下端不明瞭。径2~20mmの岩片主体で上部は割れ目が認められ、マンガン汚染を伴う。上端には幅2~6mmの緑灰色粘土が不連続に分布する。オリーフ黄色を呈する。 16.33~16.36m: 粘土状~礫混じり粘土状部 (Hc-1) 上端不明瞭。下端76°で波打って連続。径2~5mmの石英粒や岩片を10%以下で含む。灰白色を呈する。幅25mm。 16.36~16.52m: 上位の破砕部と風化の影響で劣化が著しい。 16.52~17.03m: 40~60°の割れ目沿いの劣化が顕著で一部礫~砂状となる。 17.03~17.86m: 20°程度の低角度の割れ目が優勢で、割れ目沿いの劣化が見られ、コアも軟質で表面はザラつく。																										
		17		黄橙		Dg				δ																												
		18					Vg				17.86~18.52m: コア表面のザラつきは幾分少ない。20°程度の低角度の微細な割れ目が非常に多い。																											
				浅黄橙				cg			2																											
		19																																				
				淡橙																																		
						Dg	Vg				γ																											
						Cg	IVg																															
						Dg	Vg																															
						Cg	IVg																															
						Dg	Vg																															
						Cg	IVg																															
						Dg	Vg																															
						Cg	IVg																															
						Dg	Vg																															
						Cg	IVg																															
						Dg	Vg																															
						Cg	IVg																															
						Dg	Vg																															
						Cg	IVg																															
						Dg	Vg																															
						Cg	IVg																															

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟	コ ア 形 状	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コ ア 採 取 率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測 定 月 日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深 度) 図					原 位 置 試 験 (孔 内 水 平 監 視)	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速 度 (cm / 時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ブ / ビ ッ ト	給 回 送 水 圧 (kN · r p m) (MPa)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)				
														0	10	20	30	40										50			
21			花崗斑岩	淡橙			Dg	δ		20.02m付近、傾斜50°で幅10~20mmの極めて小規模な変質部。途中でせん滅する。 20.07m：傾斜30°で幅10~40mmの小規模な変質部。 周辺岩盤にも同様な細粒部が認められており、その分布は不規則で系統性が認められない。また、原岩組織の残留の程度は周囲の岩盤と同様である。 20.23~20.37m：割れ目沿いに一部細粒状となる。 20.55~20.65m、20.87~20.94m：礫状となる。	CL'																				
		Vg					cg	21.18~21.50m：微細な割れ目に沿ってマンガンの汚染が顕著である。																							
22							IVg	bg		21.50~22.47m：割れ目に沿ってマンガンから褐色汚染へと変わる。																					
							Cg	γ		22.47~22.65m：コアチューブ引き上げ時の擾乱により礫状となる。																					
23							Vg	cg		23.38~24.55m：コアは軟質となり、表面はザラつく。																					
24							Dg	δ		24.13~24.55m：落下したコアを再採取したものである。																					
		10.41	24.55							24.55~25.48m：コア欠如																					

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩 級 区 分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 月 日	掘進 速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ ノズレット	給 圧 (kN・rpm)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)						
													0	10	20	30	40												50					
31			+			Dg	Vg			30.10~30.69m: 25° 前後の割れ目が見られる。				0	10	20	30	40	50															
																																15	25	40
32			+	花崗斑岩		Vg	IVg	Cg	γ 2	31.77~31.93m: 25° 前後の微細な割れ目、ほぼ平行に密集する。 31.87~31.91m: 上端45° で幅3mmの暗緑灰色の粘土〜シルトを伴う。下端40°。上下端の間はやや緑色味を帯び軟質である。含まれる細粒部は不連続で、軟質な区間及び周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 32.05~32.72m: 割れ目沿いの酸化汚染が目立つ。 32.36~32.39m: 20° ~30° 程度の割れ目が平行して密集する。上下端の割れ目はマンガン汚染により黒色化しているが、割れ目に細粒部は認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 32.68~32.73m: 30° 程度の割れ目がほぼ平行して密集する。緑泥石の薄い脈が3条分布する。			0	10	20	30	40	50																
33			+			Vg	IVg			33.00~33.62m: 30~50° の割れ目が卓越し、割れ目に沿って明瞭な劣化が見られるものが多い。 33.00m, 33.46mの割れ目には幅2~5mm程度で緑色化が見られる。 33.30m: 割れ目には幅1~3mmの灰白色粘土化が見られる。			0	10	20	30	40	50																
																																	1	27
34			+	灰白		Vg	Dg	Cg	IVg	34.11~34.22m: 不規則な微細な割れ目が多い。 34.22m: 傾斜65° で幅8mmの石英脈を挟む。 34.30~34.42m: コアチューブ引き上げ時の擾乱により機械割れ目が集中し、隙〜岩片状コアとなる。 34.55m付近、傾斜38° で局所的で連続しない細礫部を伴う。細礫状部は途中でせん滅し、周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 34.78m, 34.79m: 傾斜50° で幅1mm以下の石英脈を挟む。後者の割れ目には幅1mm以下の灰白色粘土を伴う。			0	10	20	30	40	50																

標 尺 (m)	標 高 度 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測定 日 月	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原 位 置 置 試 験 (孔内水平距離)	室 内 試 験 日 月	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) /孔壁 保 護	コ ア チ ュー ロ /ピ エ ツ ト	給 回 送 水 圧 数 ($\text{r} \cdot \text{pm}$) ($\text{kN} \cdot \text{MPa}$)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 ($\text{L}/\text{分}$)	排 水 量 ($\text{L}/\text{分}$)																																	
													0	10	20	30	40																																										
																											(N値~深度)																																
36				花崗斑岩		IV _g Cg cg	35.32m : 傾斜40° で幅2~3mmの石英脈を挟む。周辺は幅1cm程度で赤味を帯びる。			14 (14)	CL'																																																
																						37	Dg	35.60~35.78m : 35° 程度のほぼ平行した割れ目が密集し脆弱となる。割れ目沿いに白~灰黄色の粘土脈が見られる所が多い。 35.72m付近は礫状であるが、挟在する細粒部は局所的に分布し、連続性に乏しく、35.70~35.72m間及び周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 35.78~39.40m : 割れ目沿いの酸化及びマンガン汚染が目立つ。 36.14~36.33m : 割れ目がやや卓越する。 36.25~37.20m : 傾斜70° 以上の高角度割れ目が見られる。	14 (14)	CL'																																	
																																	38	Cg IV _g	36.86~39.40m : 傾斜50~70° の割れ目が主体となる。 36.98~37.10m : 75° の割れ目に沿って幅12mmで白色化し、細礫~砂状となる。	14 (14)	CM'																						
																																												39	Bg III _g	37.36m : 25° の割れ目に沿って幅4mmの暗褐色のシルト~砂が流入する。 37.36~37.98m : 割れ目沿いの酸化汚染は明瞭であるが、挟在物は見られない。	28 (28)	CH'											
39				洗黄		Cg IV _g Bg cg	38.96m以深。割れ目に沿って劣化するものが多い。 39.21m、39.60~39.65m : 割れ目沿いに劣化し、幅10mm以下で砂~細礫状となる。		19 (29)	CM'																																																	
39						Cg V _g				15 (29)	CL'																																																

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 状 態	風 化 化 質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測 定 月 日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深 度) 図					原 位 置 試 験 (孔 内 水 平 監 視)	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ブ / ベ ッ ト	給 水 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)															
													0	10	20	30	40											50														
41			+	花崗斑岩	浅黄	Vg	γ 2			40.64~40.93m: 不規則な割れ目が卓越し、割れ目沿いの変質による劣化が明瞭である。灰白~黄褐色の砂~細礫状となる所が多い。				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
						IVg																																				
						Cg																																				
						Vg																																				
						Dg																																				
						Cg																																				
						IVg																																				
						Dg																																				
						Vg																																				
						IVg																																				
						Cg																																				
						Dg																																				
						Cg																																				
42			+	花崗斑岩	浅黄	Vg	γ 2			41.37~41.47m: ほぼ平行な40°前後の割れ目が密集し、割れ目沿いの劣化が明瞭で脆弱である。				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
						IVg																																				
						Cg																																				
						Dg																																				
						Cg																																				
						Dg																																				
43			+	花崗斑岩	浅黄	Vg	γ 2			41.80~41.91m: 割れ目沿いの劣化が顕著で非常に脆弱である。変質し灰白色粘土が鱗目状に分布する。				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
						IVg																																				
						Cg																																				
						Dg																																				
						Cg																																				
						Dg																																				
44			+	花崗斑岩	浅黄	Vg	γ 2			42.12m: 傾斜40°で幅2mmの黄褐色粘土を挟む。 42.12~42.25m: 割れ目沿いの劣化が顕著で、一部硬質な砂状となる。粘土や鱗肌は見られない。 42.35m: 25°の割れ目に幅2~3mmのマングンを挟む。 42.38~42.46m: 局所的に硬質な砂に岩片が混じる。褐色汚染も明瞭である。				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
						IVg																																				
						Cg																																				
						Dg																																				
						Cg																																				
						Dg																																				
44			+	花崗斑岩	浅黄	Vg	γ 2			43.05m: 傾斜32°で幅10mmが劣化する。上端は幅1~2mmの石英脈。下端は幅2mmの灰白色粘土を伴う。灰白色粘土は分岐し、直線性に乏しい。 43.06~43.15m: コアチューブ引き上げ時の擾乱により岩片状を呈する。当該区間及び周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 43.54~43.65m: 変質及び風化で脆弱となる。43.63mには幅15mm程度の白色の変質脈を伴い、粘土化はしていないが軟質である。 43.80~44.21m: 20~30°の割れ目が卓越し、コアも軟質で表面はざらつく。				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
						IVg																																				
						Cg																																				
						Dg																																				
						Cg																																				
						Dg																																				
44			+	花崗斑岩	浅黄	Vg	γ 2			44.46m: 42°の割れ目沿って褐色汚染が顕著である。周辺には納養母と黄鉄鉱が散在し、幅5mm程度で緑色化する。				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
						IVg																																				
						Cg																																				
						Dg																																				
						Cg																																				
						Dg																																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																												
													() 図 N値~深度																																											
46			花崗斑岩 に ぶ い 橙				Vg Cg IVg Dg Vg cg		45.10m : 割れ目に沿って上端側は一部、幅20mmで脆弱となる。絹雲母が散在し、緑色化が著しい。割れ目に細粒部は認められず、割れ目の上位側の脆弱部は局所的に分布し、連続性に乏しい。周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 45.42~45.62m : 微細な割れ目が密集し、コアも軟質で表面がザラつく所が多い。 45.73~45.90m : 割れ目沿いに劣化し、黄褐色の礫~砂状となる。	0 50 100		0 10 20 30 40 50																																												
47																																																								
48																																	46.10~46.35m : 60~70° の割れ目が密集する。挟在物を伴う割れ目もあるが、汚染はほとんど見られない。																							
49																																	47.11~47.32m : 微細な割れ目が網目状となる。割れ目沿いの劣化も見られ軟質、脆弱となる。 47.36~47.53m : 高角度と低角度の割れ目が交差し格子状となる。割れ目に汚染は見られないが砂状の挟在物を伴う。 47.76~48.39m : 微細な割れ目が卓越し、脆弱となる。 47.76~47.90m : 割れ目沿いのマンガン汚染が明瞭である。 ●48.39~48.43m : 破砕部砂混じり粘土状~礫質砂状部 (Ho-2) 上端52°、下端45°。上端側は幅5~10mmでにぶい橙色を呈する砂混じり粘土状部。下端側は幅12~20mmで灰白色を呈する礫質砂状部からなる。両者の境界は波打っている。全体としてやや赤味を帯びる。幅30mm。 48.74m : 傾斜40° の割れ目に幅1mm以下の灰白~緑灰色粘土を挟む。下端側幅2cm程度は長石の白濁化が目立つ。 48.87m : 傾斜42° の割れ目とそれと直交する40~50° の割れ目沿ってマンガン汚染が見られる。 49.02~49.18m : 不規則な割れ目が発達する。 49.18m : 63° で、上端側幅20mmが劣化し脆弱となる。幅2mm以下の褐色粘土及び上端側の脆弱部は途中でせん滅し、連続性に乏しい。周辺は幅5mm程度で緑色化する。周辺の岩盤には原岩組織が認められる。 49.43m : 47° で幅2~4mmの白~黄褐色の鉱物脈を挟む。風化しやや軟質である。																							

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記	コア採取率 (%)	岩級	最大コア長 cm	R	Q	D	L [%]	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験						原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 月日	掘進 速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・rpm MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)																																										
																				(N 値 ~ 深度) 図																																																										
51			+	花崗斑岩	にぶい橙	明黄橙	Cg	IVg			50.09m : 15~70° の湾曲した開口割れ目に幅5mmのマンガンを挟む。	0	100	6	Q	D	L	[%]			0	10	20	30	40	50																																																				
								Eg	VIg	50.39~50.60m : 劣化し全体が軟質で、表面は砂状となる所がある。	6																												Q	D	L																																					
									IVg	50.58~50.92m : 白色粘土細脈が不規則に分布する。																																																																				
									Cg	VG	51.20~51.43m : 微細な割れ目が卓越し亀甲状となる。割れ目沿いに幅1mm以下でにぶい橙色粘土を挟む所が多い。																																																																			
										IVg	51.66~51.97m : 30~50° の微細な割れ目が非常に卓越し軟質となる。																																																																			
52											Cg																																52.11~53.35m : 傾斜20° 以下の微細な割れ目が1~3cm程度の間隔で発達する。割れ目に沿った褐色汚染は軽微である。																																			
											Dg																												cg	γ 2			52.38~52.44m : 微細な割れ目が密集し、局所的に隙状となる。上端側の割れ目に幅4mmのマンガンを挟む。																																			
53																																								VG			52.90m : 45° で幅4mmの変質した黄褐色粘土脈を挟む。褐色汚染が明瞭である。																																			
											Cg																																53.54~53.59m : 割れ目沿いの劣化が明瞭で、一部は細礫~砂状となる。																																			
											Dg																																53.84m : 高角度の割れ目に沿って劣化し、一部細礫状となる。																																			
54								IVg			54.66~54.73m : 50~60° のほぼ平行な割れ目に沿って劣化し、一部礫状となる。褐色汚染も顕著に見られる。																																																																			
						Cg					54.96~55.55m : 傾斜20° 以下の割れ目が非常に卓越する。																																																																			
								VG																																																																						

標 尺 (m)	標 高 度 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測 定 日 月	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原 位 置 置 試 験 (孔内水平距離)	室 内 試 験 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュー プ ノ ビ ット	給 回 送 水 圧 (kN ・ rpm MPa)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)					
													0	10	20	30	40									50				
56			+	花崗斑岩	に ぶ い 橙	V _g	cg			55.56m : 50° の割れ目間に幅8mmで黄褐色の砂を挟む。褐色汚染も明瞭である。	7	CL'																		
																														IV _g
																														V _g
																														Cg
																														IV _g
57			+	花崗斑岩	に ぶ い 橙	V _g	bg		56.45~56.61m : 高角度と低角度の割れ目が交差し亀甲状となる。 56.74m : 71° で幅3mmの褐色粘土を挟む。 56.88~56.98m : 約50° のほぼ平行した微細な割れ目が卓越し、一部礫状となる。	10	CL'																			
																														Bg
																														IV _g
																														Dg
																														V _g
58			+	花崗斑岩	に ぶ い 橙	Bg	cg	γ 2	57.24~58.50m : 多くの割れ目に褐色汚染が見られる。 57.54~57.74m : 傾斜50~66° の割れ目沿いに劣化し、軟質である。幅1~3mmの黄褐色粘土を挟む。	6	CL'																			
																														IV _g
																														Cg
																														Bg
																														IV _g
59			+	花崗斑岩	に ぶ い 橙	Cg	cg		58.06~58.71m : 岩質は硬い。	19	CM'																			
																														IV _g
																														Bg
																														II _g
																														IV _g
			+	花崗斑岩	に ぶ い 橙	Cg	cg		59.02~59.34m : 潜在割れ目を除き、割れ目のない柱状コアで、岩質も硬い。	38	CL'																			
																														Bg
																														IV _g

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)												
															(N 値 ~ 深度) 図																											
61			+	花崗斑岩	いんげん	Cg					2	60.07~60.45m: 微細な割れ目が卓越し、変質により軟質となる。割れ目沿いにコア表面は凹む所が多く、ザラつく。灰白~にぶい褐色の粘土が網目状に分布する。	0			0	10	20	30	40	50																					
																																		Dg	3	60.45~60.82m: 30~60°の平行に近い割れ目が卓越し、割れ目沿いに褐色汚染が明確である。	4	10	20	30	40	50
																																		Cg	2	60.82~61.72m: 微細な割れ目が卓越し、にぶい褐色の粘土が網目状に分布する。コアも軟質で、特に61.40~61.58m間は劣化が顕著で砂礫状を呈する。	4	10	20	30	40	50
																																		Dg	3	61.72~62.36m: コアは若干硬くなるが、不規則で微細な割れ目が非常に卓越する。割れ目沿いの褐色汚染が見られる。	3	10	20	30	40	50
																																		Cg	2	62.36~63.25m: コアは軟質で表面がザラつく。低角度がやや優勢な不規則で微細な割れ目が卓越する。割れ目沿いに灰白色粘土を伴う。62.40~62.52m: 長石の白濁化が目立つ。	3	10	20	30	40	50
																																		Dg	3	62.75m: 傾斜65°で幅10mmがやや緑色味を帯び、褐色汚染が明確である。割れ目に幅1mm以下の灰黄色粘土を断続的に挟み、連続性に乏しい。同系統の割れ目は白色脈を横断する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。63.00~63.26m: 劣化し全体に軟質である。割れ目に砂やシルトを挟む。	3	10	20	30	40	50
																																		Cg	2	63.26~63.62m: 上下位に比べて変質の程度は弱い。割れ目に緑灰色や黄褐色の粘土を挟む。	6	10	20	30	40	50
																																		Dg	3	63.62~63.90m: 全体に軟質で、亀甲状の割れ目に灰白色シルトを挟む。	6	10	20	30	40	50
																																		Eg	4	63.90~64.30m: 強く変質し軟質で、割れ目は不鮮明となり、やや緑色を帯びる。原岩組織は認められる。	6	10	20	30	40	50
																																		Cg	2	64.30~64.65m: 上下位に比べて変質の程度は弱い。不規則な割れ目が発達している。酸化汚染は見られない。	4	10	20	30	40	50
																																		Eg	3	●64.65~64.91m: 破砕部 粘土混じり礫状部 (H) 上端65°で直線的に連続、下端65°で不明瞭。径2~30mmの岩片主体で岩片間に幅1mm以下の灰白色粘土を挟む。上端には暗灰色粘土を幅3mmで伴う。また、64.74m及び64.80mに傾斜60°で幅1~3mmの灰~灰白色シルト (Hc-2) を挟む。全体はにぶい黄褐色を呈する。	4	10	20	30	40	50
																																		Bg	2		4	10	20	30	40	50

標高	深度	柱状	岩種	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) 孔径保護	コアチューブ ノビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
														(N値~深度) 図																			
66			花崗斑岩	褐灰	Bg					2				0	10	20	30	40	50														
						Vg cg																											
					灰黄褐	Eg	VIg	dg			4																						
						Dg						3																					
							Cg	Vg cg					2																				
							Dg					3																					
67				灰白	Eg	VIg	dg	γ		4																							
						Dg					3																						
68				こぶい橙	Cg																												
						Vg cg																											
						Dg																											
						Eg	IVg	dg			2																						
69																																	
					Cg	Vg cg																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
														(N値~深度) 図																							
														0	10	20	30	40	50																		
71																																					
72																																					
73																																					
74																																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・rpm)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)									
															(N 値 ~ 深度) 図																								
							Bg IVg bg			2					0 10 20 30 40 50																								
							Dg Vg cg			3	80.13~80.29m: 35~55° の同方向の割れ目が密集する。マンガン汚染が目立ち、脱色も見られる。 80.29~80.51m: 割れ目はやや少なくなるが、割れ目沿いの劣化は明確である。 80.51~81.02m: 割れ目に挟在物は見られず、岩質は硬い。		CM'																										
							Cg																																
81							IIg bg							CH'																									
							Bg																																
							IVg bg				81.20~81.96m: 割れ目の挟在物も薄く、岩質も硬質である。90° の高角度の微細な割れ目が見られるが、完全に密着する。																												
82							Cg			2																													
							Bg																																
							Cg Vg cg				82.70m, 82.83m: 傾斜50° 前後で幅1~3mmの褐色粘土を挟む。			CM'																									
83							Bg IVg bg				83.08~83.32m: 40° 前後の割れ目沿いに褐色汚染が明瞭である。汚染は、割れ目沿いのみならず、一部は岩芯まで褐色化する。多方向の微細な割れ目が発達する。 83.31m: 傾斜38° 前後で幅0~8mmの暗褐色粘土を挟む。径1cm以下の岩片を多く含む。																												
							Dg Vg cg																																
84							Cg IVg bg				84.09~84.77m: 多方向の割れ目が発達し、岩質も軟質である。特に84.15~84.18m, 84.39~84.58m間は劣化が進み、脆弱である。黄色味を帯びて薄片状を呈する。																												
										3				CL'																									
										2				CM'																									

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 → (%)	最大コア長 → cm	R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 月日	掘進 速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コア チップ ノット	給 圧 (kN・ rpm)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)								
																	0	10	20	30	40												50							
			花崗斑岩	にふい橙			IVg	bg				0	50	100																										
					Cg																																			
					Vg	cg																																		
86					Bg	IVg	bg																																	
					Eg	VIg	dg																																	
					Bg	IIIg	bg	γ	2																															
						Cg	cg																																	
						Bg	IVg	bg																																
						Cg	cg																																	
						Bg	cg																																	
89						Bg	IVg	bg																																
						Cg	Vg	cg																																
				Bg	IVg	bg																																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ベット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)											
													N	0	10	20	30												40	50									
		91	花崗斑岩	浅黄橙			bg	γ	90.64m : 傾斜54° で幅2mm程度のマンガンを挟む。周辺は幅1cm程度緑色化する。 90.75~91.96m : 微細な高角度の割れ目が卓越する。高角度の割れ目は、50° 以下の顕在化した割れ目で止まっているものが多い。50° 以下の割れ目に細粒部は伴わない。もしくは途中でせん滅し、連続性に乏しく、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	17	CM'																												
		92					Bg IVg			cg		91.45m : 48° で幅6mmが緑色を帯びる。割れ目に挟在する細粒部はせん滅する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	6	CL'																									
		93					Dg		cg	92.55~92.71m : 多方向の割れ目が交差し亀甲状となる。岩質もやや軟質である。	6	CM'																											
		94					Cg		dg	92.94~92.96m : 傾斜27~40° の2条の割れ目に挟まれた区間が黄色味を帯びてやや軟質である。	14		CL'																										
							VIg		cg	●93.13~93.22m : 破砕部 93.13~93.14m : 粘土状部 (Ho-1) 傾斜30°。淡黄色を呈する。幅12mm。 93.14~93.22m : 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端30°。下端50° でいずれも直線的に連続。径2~10mmの岩片主体で岩片間にわずかに灰白色粘土脈を挟む。にぶい黄橙色を呈する。幅67mm。	14	CM'																											
							IVg		cg		94.38~94.40m : 2条の割れ目沿いに劣化し脆弱となる。挟在する灰黄色粘土は不連続で、この区間及び周辺岩盤には原岩組織が認められる。系統的な割れ目は存在しない。		13	CL'																									
							Cg		cg		13																												
							Bg		bg																														
							IVg		cg																														
							VIg		cg																														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コーア形状	割れ目の状態	変質	記 事	コーア採取率 (%) 最大コーア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図	原位試験 (孔内水平軸荷)	室内試験	掘進日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コーアチューブ/ビット	給戻率 (rpm)	回転数 (MPa)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
96			+	花崗斑岩	浅黄橙	Bg	cg	Vg	2	95.08~95.37m: 35~60° の平行した割れ目に沿って弱い変質作用を受ける。割れ目沿いはやや緑色を帯びる。 95.37mの割れ目に幅1mmの灰黄色粘土を挟む。	0 50 100	CL'	0 10 20 30 40 50															
										95.65~95.75m: 傾斜60° で幅3cm程度が劣化し砂礫状を呈する。絹雲母が散在する。																		
97			+	花崗斑岩	浅黄橙	Dg	bg	IVg	2	96.20~96.32m: 30° で幅30~40mmが脆弱で軟質となる。緑色を帯びる。下端側幅1cm程度は砂礫状を呈するが、含まれる礫や岩片に定向配列は見られない。脆弱部の境界は不明瞭で凹凸があり、脆弱部周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	0 50 100	D'	0 10 20 30 40 50															
										96.96m: 傾斜52° で幅1.5cm程度が緑色化する。 97.10~97.59m, 97.81~98.03m: 割れ目が著しく発達し、砂礫状を呈する。コーアが乱れている。																		
98			+	花崗斑岩	浅黄橙	Cg	cg	IVg	3	98.03~98.27m: 短柱状~岩片状コーアからなる。傾斜40~60° の割れ目に沿った劣化が顕著である。 98.27~99.53m: 柱状~短柱状コーアからなるが、密着した微細な割れ目が非常に多く、軟質でコーア表面はザラつく。	0 50 100	CL'	0 10 20 30 40 50															
										98.64m: 傾斜30° で幅5mm以下の灰白色粘土を挟む。 98.70~98.74m: マンガンが濃集する。																		
99			+	花崗斑岩	浅黄橙	Dg	cg	Vg	2	99.05~99.10m: 局部的に変化が進み礫状となる。酸化汚染も顕著である。99.10m付近に絹雲母が多く見られる。 傾斜50° で幅1.5cm程度が緑色化する。	0 50 100	CL'	0 10 20 30 40 50															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																												
													N	値																																							
			花崗斑岩		浅黄橙		IV _ε III _ε Bg IV _ε		100.28m, 100.30m: 50~55° で幅2~4mmの赤褐色の砂状状物を不連続に挟む。褐色汚染が明瞭である。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。100.45m: 25° の低角度割れ目の周辺に鮮やかな緑色の緑泥石が見られる。	0 50 100 g (4)	CM'		0 10 20 30 40 50																																								
101																																Cg V _ε cg		101.31~101.43m: 5~20° の低角度を主体とした割れ目が密集する。割れ目沿いの劣化も明瞭で、一部局所的に塊状となる。	96 [51]																		
																																II _ε Bg III _ε	γ 2	101.34m: 傾斜51° で幅5~10mmの褐色砂状部を挟む。径2~5mmの岩片を含む。 101.43~102.23m: 柱状~長柱状コアが主体で、岩質も堅硬である。	10	CH'																	
102																															Cg V _ε cg																						102.23~102.37m: 傾斜50° の割れ目がやや卓越し、102.23m, 102.25mは割れ目沿いの劣化が明瞭である。幅1~5mmの砂混じり黄褐色シルトを挟む。2本の割れ目の間及び周辺岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
																																Dg V _ε Cg IV _ε Bg III _ε		103.40~103.55m: 傾斜40~50° の割れ目の間に高角度の微細な割れ目が分布する。割れ目に沿ったマンガン汚染が見られる。	13 [13]																		
103																																																					
																																Dg V _ε Cg IV _ε Bg III _ε		104.50~104.90m: 斑状の褐色汚染が明瞭である。	14 [14]																		
104																																																					
																																に濃い黄橙	IV _ε Bg III _ε																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) /孔壁保護	コアチューブ ノズレット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
														0	10	20	30	40												50							
			花崗斑岩	にぶい黄橙			bg			105.08~105.80m: 柱状コアが主体で岩質も堅硬である。	CH'																										
										IIIg																						18	44	100			
										cg																											
106				黄橙				2		106.31~106.38m: 局部的に傾斜10~45°の割れ目が密集し、割れ目沿いの劣化もわずかに見られる。	CM'																										
										IVg																							16	40	100		
										IIIg																											
				にぶい黄橙					γ	106.58~106.92m: 斑状の褐色汚染が見られる。	CH'																										
										Bg																											
										IVg																											
107				にぶい黄橙						106.87m: 30°で幅3mmの汚染されて褐色となった砂~シルトを挟む。	CH'																										
			IIIg																																		
			IVg																																		
108			浅黄橙						107.47~108.34m: 堅硬な柱状コアが主体で、割れ目やコア表面にマンガンと褐色汚染が見られるが、挟在物はほとんど見られない。	CL'																											
									IIIg																												
									IIg																												
109			浅黄橙						●108.44~109.71m: 礫砕部 108.44~108.63m: 粘土混じり礫状部(Hj) 上端52°で直線的に、下端45°で不明瞭に連続。径2~10mmの粘土化した岩片主体で、全体に軟質で灰白色を呈し、弱い織状構造が見られる。 108.63~108.67m: 粘土質礫状部(Hb) 上端45°で不明瞭に、下端57°で漸移的に連続。径10mm以下の粘土化した岩片主体で、軟質。上位より変質し灰白色を呈する。幅30mm。 108.67~108.71m: 礫質粘土状部(Hb) 上端57°で漸移的に、下端62°で波打って連続。褐色汚染が明瞭で、褐色の軟質な基質に径10mm以下の岩片を含む。織状構造が見られる。幅35mm。 108.71~109.79m: 傾斜40~60°の割れ目が卓越し、割れ目沿いの劣化も見られ、やや脆弱である。 109.71~109.90m: 直交する2方向の割れ目が明瞭で、格子状となる。 109.90~109.03m: 砂礫状を呈し、一部高角度割れ目に流入する。 109.41m: 傾斜48°で幅0.5mmの灰白色粘土とマンガンを挟む。下端側幅1.5cm程度は珪化し、にぶい橙色に変色して原岩組織も不明瞭となる。 109.76~109.79m: 傾斜50°の割れ目の間が幅3cm程度で変質し、灰白色を呈する。下端側の健岩部との境界は明瞭である。 109.79~110.78m: 微細な割れ目が密集する所もあるが、コアは硬く、割れ目の多くは密着する。 109.79~110.38m: 傾斜80°程度の割れ目が複数分布する。	CL'																											
									Eg																								VIg	dg			
									Dg																								Vg	cg			
			にぶい黄橙						2	CL'																											
									Cg																					IVg	bg						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・rpm)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)											
															(N 値 ~ 深度) 図																										
												0 50 100			0 10 20 30 40 50																										
											115.40~115.54m: 115.46m付近の2条の潜在割れ目を中心に褐色汚染が明瞭である。黄鉄鉱を中心に褐色化が顕著に見られる。	22 [57]	CM'																												
116											116.30m: 57° で幅5mmの褐色に汚染された砂状挟在物が見られる。	21																													
											116.52~119.32m: 柱状~長柱状の堅硬なコアが主体となる。	21 [47]																													
117																																									
118											117.83m: 50° の割れ目に沿って熱水変質が見られ、緑泥石化により、やや緑色を帯びる。割れ目の周囲には絹雲母が晶出する。	30 [72]	CH'																												
119											119.65~119.83m: 割れ目がやや発達する。割れ目にはマンガン及び褐色の汚染が明瞭で、一部は砂~シルト状の挟在物が見られる。	30 [30]	CM'																												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
															0	10	20	30	40												50							
126			+				IIg IVg				125.37m付近、局所的に微細な割れ目が密集する。	20 [47]	CH'																									
														Bg IVg	bg																							
127			+				IIIg IVg				126.34~126.69m: 柱状コアであるが、褐色汚染が見られる。汚染はコア全体に及ぶ。	24 [40]	CH'																									
														Bg IVg	bg																							
128			+				Cg Vg	cg	γ 2		127.00~127.63m: 不規則で微細な割れ目が発達する。 127.66~127.30m: 軟質でコア表面はザラつく。実質により割れ目に沿って緑色を帯びる所がある。 127.19~127.22m: 傾斜62°で幅0~10mm程度で局所的に灰白色粘土、一部赤褐色粘土を挟む。	12 [12]	CL'																									
														Bg IVg	bg																							
129			+				Cg Vg	cg			128.26~128.76m: 微細な割れ目が多く、割れ目沿いに褐色汚染が見られる。	8 [8]	CL'																									
														Bg IVg	bg																							
			+				Cg Vg	cg			128.90~129.15m: 一部の傾斜30~45°の割れ目沿いに劣化が見られ、一部の割れ目は線状となる。	36 [43]	CL'																									
														Bg IVg	bg																							
											129.98~130.50m: 傾斜80°程度の割れ目が複数分布する。																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																														
													(N値 ~ 深度) 図																																																																													
131			+				bg		130.02~130.42m: 80° の高角度の割れ目が見られ、割れ目沿いに劣化し、一部礫状となる。	0				0	10	20	30	40	50																																																																							
							Cg																																																																																			
							cg																																																																																			
							IVg																																																																																			
							132																										+				IIg	130.84m付近、交差する割れ目に挟まれた区間が局部的に劣化し、礫状となる。	9	100	CM'																																																	
																																					IIg																																																					
																																					IIIg																																																					
																																					bg																																																					
																																					IVg																																																					
																																					133																									+				IIg	131.54~131.61m: コアの半分が劣化し礫状となる。	32	100																					
IIg																																																																																										
IIIg																																																																																										
bg																																																																																										
IVg																																																																																										
134			+				IIg	132.14~132.67m: 堅硬な柱状コアからなる。 132.31m: 傾斜25° で幅1~2mmの石英脈を挟む。	26	100																																																																																
							IIg																																																																																			
							IIIg																																																																																			
							Bg																																																																																			
							IVg																																																																																			
							133																									+				cg	132.67m: 傾斜82° の割れ目が分布する。 132.87m: 45° で幅3mmのマンガンを挟む。	26	100	CH'																																																		
																																				cg																																																						
																																				134																										+				IIIg	133.24~133.29m: 傾斜40~50° の割れ目間が礫状となり、礫には褐色の細粒物が付着する。 133.90m: 傾斜72° の割れ目沿いに褐色化が顕著に見られる。 134.02~134.50m: 強い褐色汚染がコア全体に及ぶ。	26	100																					
																																																																		IIIg																								
																																																																		bg																								
IVg																																																																																										
134			+					IIIg	134.50~134.74m: コアはやや青味を帯びる。風化の影響は少ない。 134.78m付近、黄鉄鉱が見られ、その周辺には褐色汚染が狭い範囲に見られる。	14	100																																																																															
								IIIg																																																																																		

孔番 : H27-B-4

深度 0.00m ~18.00m



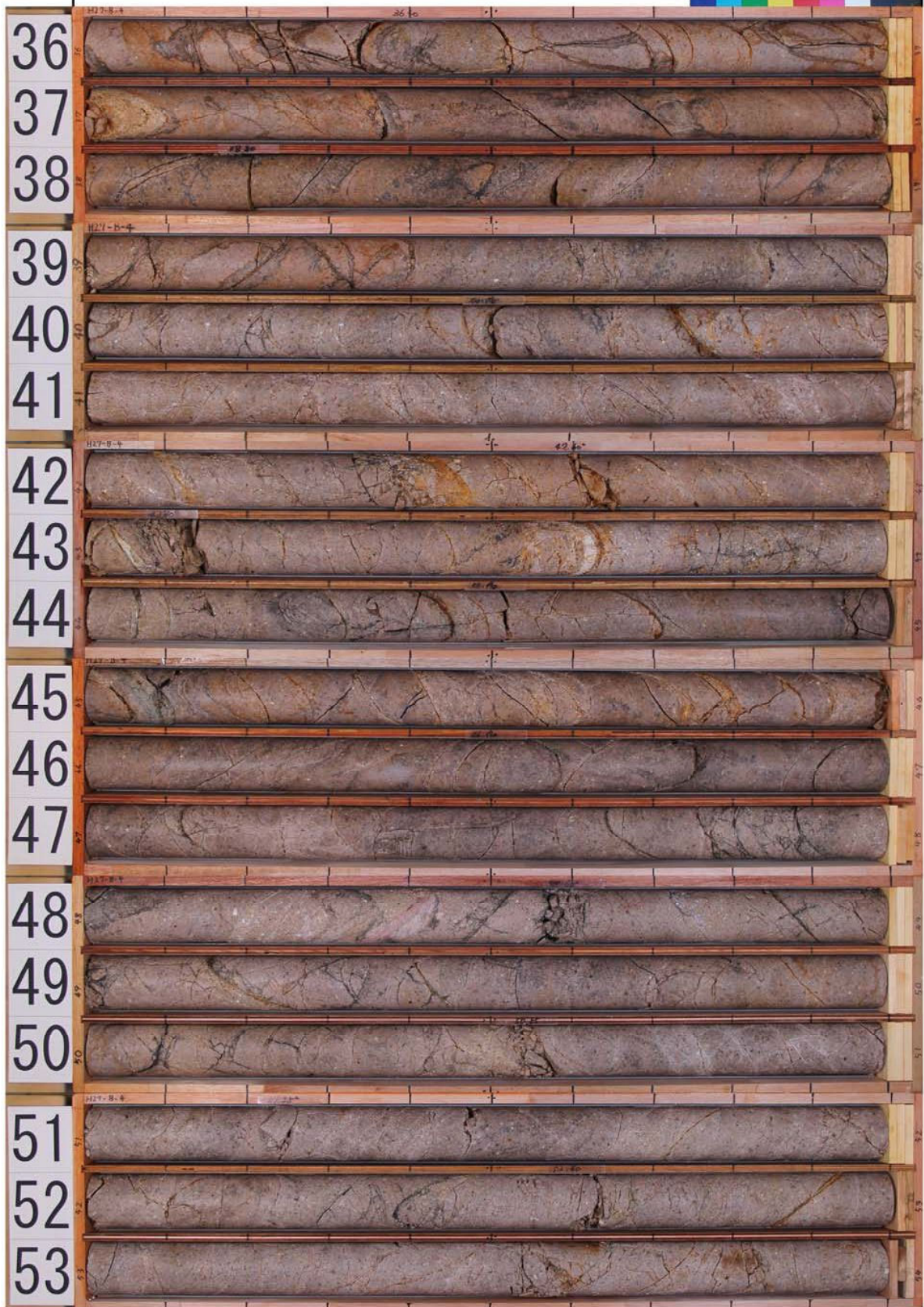
孔番 : H27-B-4

深度 18.00m ~ 36.00m



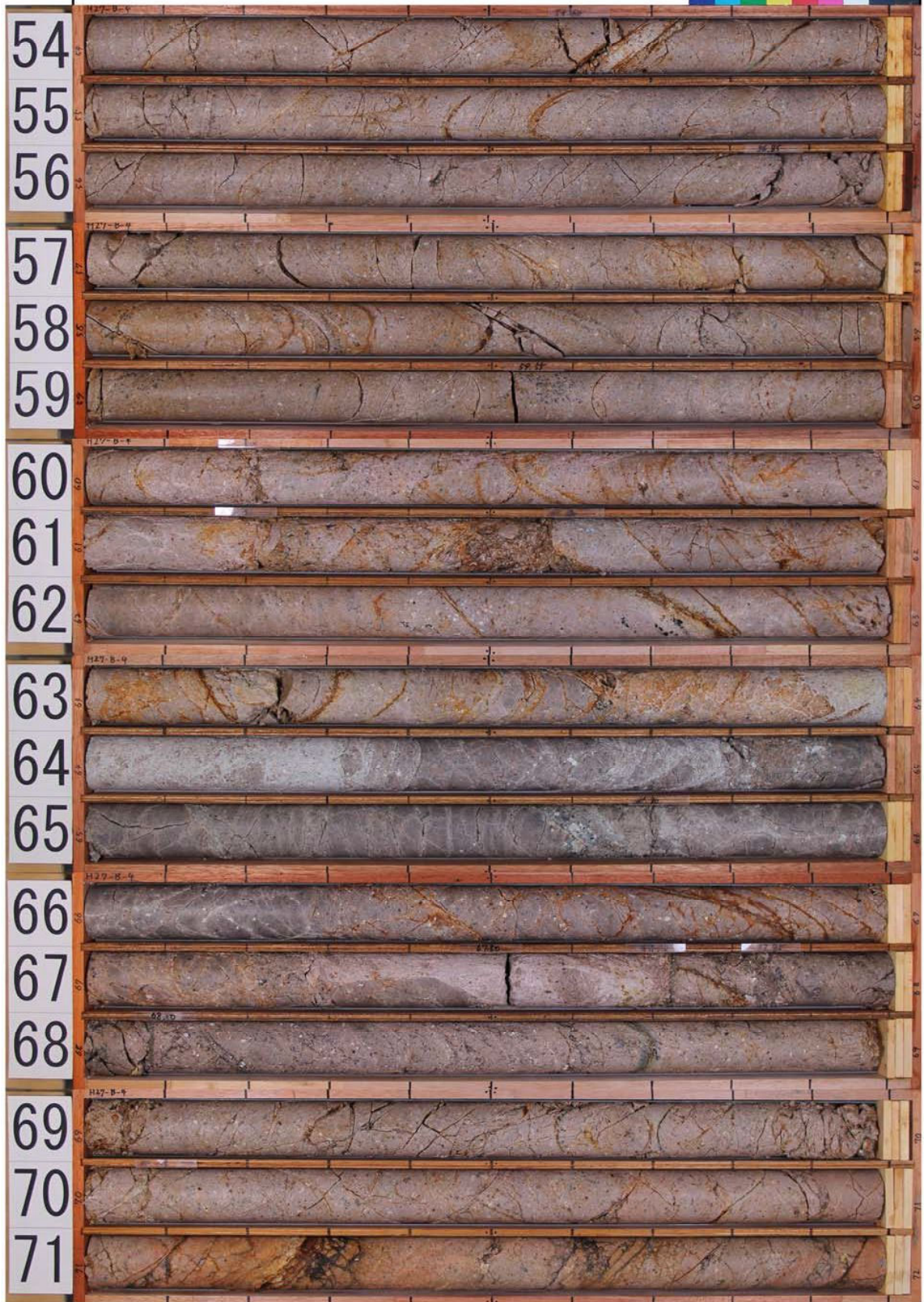
孔番 : H27-B-4

深度 36.00m ~ 54.00m



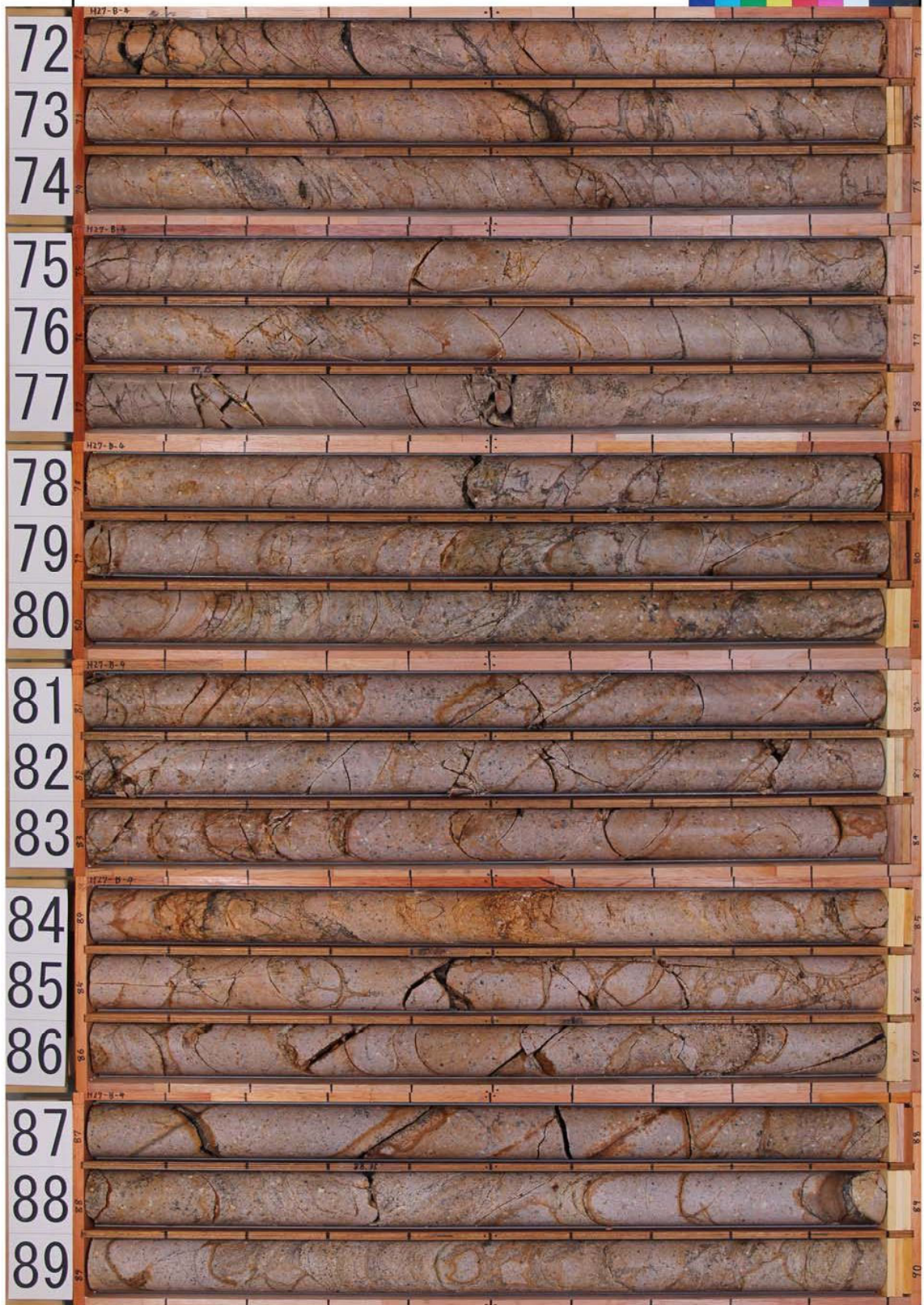
孔番 : H27-B-4

深度 54.00m ~ 72.00m



孔番 : H27-B-4

深度 72.00m ~ 90.00m



孔番 : H27-B-4

深度 90.00m ~ 108.00m



孔番 : H27-B-4

深度 108.00m ~ 126.00m



孔番 : H27-B-4

深度 126.00m ~ 140.00m



余白

H24-D1-5

余白

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔徑 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)														
													N	0	10	20	30											40	50												
				盛土	にぶい黄褐色																																				
		2.27	7.41						7.41~54.00m: 花崗斑岩 径1~10mmの石英、長石の斑晶を5~15%程度含む。19m以深は斑晶の量が少なくアブライト様を呈する部分もある。 7.41~8.51m: 風化で著しく軟質化するが、原岩組織はほぼ残留し、割れ目は一部で消滅~消滅しかかるものもあるが、残留するものが多い。傾斜30~50°の割れ目が主体で、割れ目周辺の幅5~10mmが褐色化することが多い。長石斑晶は粘土化して白濁化するが、これ以外では粘土化や粘土脈は殆んど分布しない。上端には幅1cm程度のモルタルが付着する。 7.45m: 傾斜40°の割れ目は、交差する傾斜53°で幅2mmの石英脈を止めている。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 7.89m: 傾斜50°の割れ目に幅1~3mm程度のマンガンを挟み、割れ目周辺は幅3~5mm程度で緑色化する。 8.03~8.08m: マンガン汚染が顕著で、径2~10mmの岩片を15~20%程度含む。 8.48m: 傾斜45°で幅5~10mmが緑泥石化により緑灰色化する。粘土化は伴わない。 ●8.51~8.71m: 破砕部 8.51~8.66m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端55°でほぼ直線的にシャープに、下端50°でやや不明瞭に波打ちながら連続。径5mm前後の原岩組織が消滅した軟質化~粘土化岩片と、岩片間を網状に分布する幅1~2mmの軟質な淡黄色粘土脈からなる。8.51~8.54mは粘土分が多い。淡黄~にぶい橙色を呈する。 8.66~8.69m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端50°でやや不明瞭に、下端60°でやや波打って連続。径2~3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片からなる。軟質。にぶい黄褐色を呈する。幅25~30mm。 8.69~8.70m: 粘土状部 (Hc-1) 上端60°でやや波打ち、下端60°で直線的に連続。径1mm以下の石英粒を少量含む。軟質。明赤灰色を呈する。幅3~8mm。 8.70~8.71m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端60°で直線的に、下端55°でほぼ直線的にシャープに連続。径1~2mmの石英粒と径3~5mmの粘土化した花崗斑岩の岩片からなる。軟質。にぶい黄褐色を呈する。幅3~10mm。 8.71~10.19m: 著しく軟質化し、原岩組織は一部で残留するが、割れ目は大半が消滅する。8.50~10.19mでは傾斜30~40°とこれに斜交~直交する傾斜50~70°の割れ目の一部が残留する。	2 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)																												
				花崗斑岩	にぶい橙	Vs cg	3	δ			D																														
					にぶい黄褐色	Vls dg	3																																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																															
														(N)	(m)																																																																																										
11				花崗斑岩	に多い黄褐色	Eg	Vlg	dg	3	<p>●10.19~10.21m: 破碎部 (H-3d 破碎部)</p> <p>10.19~10.20m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端27°で直線的にシャープに、下端56°でやや波打って連続。径1~3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。軟質。灰白色を呈する。幅6~10mm。</p> <p>10.20~10.21m: 粘土状部 (Hc-1) 上端36°でやや波打って、下端40°で直線的にシャープに連続。径1mm前後の石英粒を若干含む。軟質。灰白~上部側でにぶい黄色を呈する。幅4~6mm。</p> <p>10.21~10.45m: 消滅した割れ目が多いが、傾斜50~70°の割れ目と低密着割れ目の一部が残留し、幅0.5~1mmの軟質な白色粘土脈を挟むことが多い。</p> <p>10.37m: 傾斜65°の割れ目を境に色調がにぶい橙色から橙色に変わり、岩片も硬さ「D」が多くなり、粘土脈は分布しなくなる。割れ目には幅0.5~1mmの軟質な白色粘土脈を挟み、上端側幅約5mmはマンガン鉱染により黒褐色化する。</p> <p>●10.45~10.50m: 破碎部 (H-4 破碎部)</p> <p>10.45m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜30°で直線的にシャープに連続する幅1mm以下の軟質な白色粘土。</p> <p>10.45~10.50m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端30°で直線的にシャープに、下端40°で一部で大きく波打ちながら連続。径1~2mmの石英粒と長さ10~20mm、幅5~10mmの扁平化した花崗斑岩の礫を多く含む。軟質。灰白~にぶい褐色を呈する。幅40~45mm。</p> <p>10.50~12.00m: 原岩組織と割れ目は明確に残留する。傾斜40~60°の割れ目が破碎部とほぼ平行に分布する。割れ目沿いに砂状化し、幅0.5mm前後の軟質な白色粘土脈を挟むことが多い。</p> <p>11.10~11.11m、11.90~11.95m: 傾斜45~50°の割れ目沿いにマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。</p> <p>12.00~12.61m: 傾斜50~60°の割れ目が数本分布するのみであるが、不規則状に低密着割れ目を含んでおり、打撃で径5cm前後の岩片に碎け易い。割れ目沿いの砂状化や粘土脈の挟在は少ない。</p> <p>12.61~14.19m: 傾斜40~60°の割れ目が主体で、これらに斜交~直交する20~40°の割れ目も多い。13.86~14.19mには傾斜80~85°の2本の割れ目が連続し、他の割れ目との交差部では砂状化~径5~10mmに細片化する。粘土脈は挟まない。</p> <p>14.19~16.18m: 割れ目は傾斜50°以下が多く、割れ目は酸化した褐色化するが、砂や粘土などの挟在物はない。</p> <p>15.53~15.92mは風化で表面が褐色化するが、劣化はない。15.40~15.65mに傾斜10~30°の、15.10~15.40mに傾斜85~90°の低密着割れ目が分布する。</p>	0 50 100	D'	0 10 20 30 40 50																																																																																												
12																																			明褐灰	Dg	Vlg	cg	3	δ		CL'	0 10 20 30 40 50																																																														
13																																																											Cg	Vlg	cg	2	γ		CM'	0 10 20 30 40 50																																							
14																																																																																			Bg	IIIg	bg				CH'	0 10 20 30 40 50															

標高 尺 (m)	深度 度 (m)	柱状 状 図	岩種 区 分	色調	硬軟	割れ目 の 状態	風化 質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔内水位 (m) 測定月 日	標準貫入 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内 試験 日	掘進 速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コア チューブ / ペット	給 圧 (kN・ rpm)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)																		
												0	10	20	30	40											50																	
16		+	花崗斑岩	褐灰	IIg				0	CH																																		
					明褐灰	Bg	IIIg			2	CM																																	
														Cg	IVg																													
																							Dg	Vg																				
														Eg	VIg	dg																												
				Cg	IVg			2																																				
			Bg																																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └─ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入 () 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
														(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)																				
21				明燻灰	Dg	IVg	IVg	γ		20.10~20.46m: 傾斜40~60° の割れ目と低密着割れ目が概ね1~3cm間隔で平行に分布する。一部で薄く砂状化するが、粘土脈の挟入は殆んどない。 20.11m: 傾斜60° の割れ目はマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。 20.46~20.85m: 一部に硬質部を含むが、全体にやや硬質である。傾斜50~60° の割れ目が主体で、割れ目沿いの砂状化は殆んどないが、幅1~2mmの軟質な白~浅黄色の粘土脈を挟むことが多い。 20.65m~20.80m: 割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化する。 20.85~21.43m: 傾斜20~30° とこれに斜交する50~60° の割れ目が主体で、一部で同傾斜の低密着割れ目も分布する。一部のコア表面は褐色化するが、劣化はない。割れ目の挟入物も見られない。 21.06m・30° と 21.15m・50° の各割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化する。 21.33m: 傾斜60° の割れ目は、交差する傾斜20° の割れ目及び21.36mの褐色化した割れ目を横断する。割れ目には挟入物が認められない。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 21.43~21.50m: 傾斜20~30° と50~60° の割れ目が5~10m間隔で交差し全体が軟質化する。幅0.5mmの軟質な白色粘土がわずかに付着する。 21.50~21.81m: わずかに低密着割れ目が分布する。 21.81~22.43m: 傾斜10~40° とこれに斜交する40~60° の割れ目が主体で、22.10mの傾斜70° の割れ目は薄く砂状化し、22.36mの傾斜50° の割れ目は幅1~2mmの軟質な白色粘土などの挟入物が分布するが、全体的には割れ目に挟入物は分布しない。 22.10m: 傾斜70° の割れ目沿いは砂状化する。 22.28m: 傾斜80° で幅2~3mmのカリ長石の濃集部の脈が分布する。 22.36m: 傾斜50° で幅1~2mmの軟質な白色粘土を挟む。 22.43~22.91m: 傾斜45° 前後の割れ目が主体で、一部これに斜交する10~20° の割れ目と低密着割れ目が分布する。 22.52~22.55m: 傾斜15~20° の割れ目沿いが径10mm前後で細片化する。 22.56m: 傾斜58° で幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。 22.81~22.91m: 割れ目や低密着割れ目にごく薄く砂状部を挟む。 22.91~22.94m: 傾斜50~55° の割れ目に囲まれ、幅20mmが風化で砂状~細片化する。わずかに幅1mm・長さ20mmの軟質な白色粘土が分布する。 22.94~23.60m: 傾斜20~30° とこれにほぼ直交する50~60° の割れ目が分布し、割れ目の挟入物はない。 23.45m以深はコア表面は風化で縞状ににじみ褐色を帯びる。 23.60~23.96m: 傾斜30~45° と、これに斜交~直交する50° の割れ目が分布する。 23.96~24.47m: 割れ目が少なく、上端、下端と24.26mに傾斜40~50° の割れ目が計3本見られる。割れ目に挟入物は分布しない。 24.47~25.80m: 傾斜30~50° の割れ目や低密着割れ目が1~6cm間隔でほぼ平行に分布する。	CL' CM' CH' CM'																								
22				花崗斑岩	Dg	IVg	IVg	2																											
23				灰褐	Bg	IIIg	IIIg	bg																											
24					Bg	IVg	IVg																												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
													0	10	20	30	40												50		
		26	+	灰褐			IVg bg		25.30~25.32m: 傾斜45°で幅10mm程度が砂状~径5mmに細片化する。	10	CM'																				
							Vg cg		25.80~26.95m: 傾斜30~50°の割れ目とわずかな低密着割れ目がほぼ平行に10~15cm間隔が主体で分布する。一部でこれらと斜交~直交する10~50°の割れ目も分布し、26.41m~26.47mでは両系統の割れ目が交差し、径20~30mmの硬質岩片に細片化するが、砂~粘土化部は伴わない。割れ目やコア表面の一部は風化で褐色化するが、劣化は伴わない。	13																					
							IVg			1																					
							IIIg			22																					
							IVg			42																					
							IIIg			162																					
		27	+	花崗斑岩		γ 2	IVg	26.95~27.20m: 割れ目間隔3~10cmで割れ目がやや多いが、割れ目の挟在物は分布しない。	CH'																						
							IIIg																							27.20~28.48m: コア長20cm以上、傾斜0~10°の割れ目が主体で、挟在物は分布しない。	
							Bg																							29	
							IIg																							162	
							bg																							29	
							IVg																							162	
		28	+	花崗斑岩			IVg	28.48~30.20m: 傾斜40~50°の割れ目が主体で、ほぼ平行に分布する。一部の割れ目や割れ目周辺は風化で褐色化し、コア表面はにぶい橙色を呈するが、砂状化などの劣化は伴わず、粘土や粘土脈も挟在しない。所々、マンガン脈染で黒褐色化する。	CM'																						
							IIg																								59
							IIIg																								162
							IVg																								162
							IIIg																								162
							IVg																								162
		29	+	花崗斑岩			IVg	29.20m以深では、一部に傾斜40~50°とこれらに斜交~直交する低密着割れ目も含み、ハンマーの打撃で10cm以下に分離することがある。	CM'																						
							IVg																								162
							IVg																								162
							IVg																								162
							IVg																								162
							IVg																								162

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └─ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値~深度) 図					原位試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)													
															0	10	20	30	40												50												
31			花崗斑岩	にこい橙	Bg	IVg	bg	γ	δ	2	30.20~30.35m: 傾斜30~40°の割れ目が5~20mm間隔で平行に分布し、風化で砂状化を伴い、軟質化する。粘土化や粘土脈は分布しない。		CM'																														
					Cg	Vg	cg							30.57~30.77m: 傾斜20~40°の割れ目が分布するが、割れ目は少ない。割れ目に挟在物は分布しない。																													
					Bg	IVg	bg							30.77~31.57m: 風化でやや軟質化する。傾斜30~50°の割れ目と一部でこれらに斜交~直交する30~50°の割れ目も分布する。また、同傾斜の低密割れ目も31.40~31.57mに多く分布する。割れ目沿いに薄く砂状化することが多いが、粘土化部や粘土脈の分布は少ない。																													
					Dg	Vg					31.06m: 傾斜50°で幅1~2mmの風化して軟質な黄褐色粘土脈を挟む。																																
					Cg	IVg					31.42m・35°, 31.52m・45°の各割れ目の下側は幅12mm、幅30mmで砂状化する。																																
					Dg	Vg					31.44m: 傾斜40°の割れ目の下側幅10~20mmがマンガン鉱染で黒褐色化する。																																
32				花崗斑岩	明褐灰	Bg			γ	2	2	31.57~32.68m: 傾斜30~50°の割れ目を主体とする。		CL'																													
						Cg						32.14m: 傾斜50°の割れ目沿いに幅2~4mmが砂状化~径2~3mmに細片化するが、粘土化部や粘土脈は分布しない。																															
						IVg						32.68~32.76m: 上下端を傾斜45°の割れ目で囲まれ、風化で砂状化する。上端は一部で幅4mmの軟質な明黄褐色粘土を伴うが、粘土は連続しない。																															
						Cg						32.76~33.96m: 割れ目が多く、一部で砂状化部を挟む。傾斜40~70°の割れ目が主体で、一部これに斜交~直交する10~40°の割れ目も分布する。また、同傾斜の低密割れ目も33.40~33.60mに多く分布する。																															
33				花崗斑岩	明褐灰	Bg			γ	2	2	33.80m: 傾斜50°の割れ目は、交差する傾斜25°の割れ目を止めている。割れ目に挟在物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。		CM'																													
			IVg					33.86m: 傾斜25°で幅0.5mmの石英脈が母岩に密着して連続する。																																			
34			花崗斑岩	明褐灰	Dg	Vg		δ	3	3	33.96~35.08m: 風化で、多くの割れ目沿いは砂状化し、幅1mm前後の軟質な白~明黄褐色の粘土脈を挟むことが多い。一部の割れ目は消滅しかかり、不明瞭であるが、大半は明瞭に残留する。傾斜20~40°の割れ目が主体で、これらに斜交する40~70°の割れ目も分布する。35.05mに傾斜50°で幅4mmの軟質な明赤灰色の粘土脈を挟む。		CL'																														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
															0	10	20	30	40												50						
36			+	明褐灰			Dg	δ	3		35.08~36.00m: 割れ目の多くは砂状化したり。径5~10mmに細片化するが、粘土部や粘土脈は分布しない。傾斜10~40°の割れ目と、これらに斜交する40~80°の割れ目からなり、同傾斜の低密着割れ目も多く分布する。	0																									
																																		Cg	γ	2	35.25m: 傾斜50°の割れ目沿いに幅10mmが緑泥石化により淡緑灰色化し、径0.1mm程度の微細な白雲母が多数晶出する。
																																		Vg		2	35.78~35.90m: 割れ目や低密着割れ目沿いに弱くマンガン鉱染を受ける。
37			+	花崗斑岩			Dg	δ	3		35.97m: 傾斜60°の割れ目は、交差する傾斜55°の割れ目を止めている。幅2~3mmで径1~2mmの細片混じりの黄褐色粘土脈を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	0																									
																																		Cg	IVg	γ	36.00~36.70m: 割れ目沿いやコア表面の一部が砂状化する。粘土部や粘土脈の分布は少ないが、35.50~36.60m間には幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を多く挟む。割れ目は傾斜40~60°とこれらに交差する20~30°の割れ目や低密着割れ目が多いが、後者は消滅しかかっているものもある。
																																		Dg	Vg	δ	36.70~38.71m: 傾斜60~70°の割れ目と、これらに斜交~直交する20~50°の割れ目が主体で、割れ目沿いの砂状化は殆んどなく、粘土脈も挟まない。ただし、一部で風化により軟質化し、37.17~37.59m間は、傾斜50~70°とこれらに斜交する20~30°の割れ目で径10~30mmに岩片化する。38.61~38.71m間は、傾斜70°と20~40°の割れ目が交差し、径10~20mmの岩片に細片化する。
38			+	明褐灰			Dg	δ	cg		37.72m: 傾斜66°で幅1mmの灰白色粘土を挟む。周辺は幅5mmで灰オリーブ色を呈する。	0																									
																																Cg	IVg	γ	37.85m: 傾斜68°の割れ目沿いに幅10mm以下で淡緑灰色を呈する。と30~38.00~38.13m: 傾斜60~70°と30~50°の割れ目が交差し、径10~40mmの岩片状を呈する。		
																																Cg	IVg	γ	38.13~38.71m: 一部に硬質部を含む。傾斜60~70°の割れ目や低密着割れ目、母岩に密着した幅1~2mmの石英脈が平行に分布する。		
39			+	明褐灰			Eg	δ			38.71~38.79m: 上端は礫状コアのため不明。下端は傾斜45°の直線的でシャープな割れ目で、この間は砂状化と幅1mm以下の軟質な灰白色粘土脈を多く伴い、劣化する。	0																									
																																	Vg		δ	38.79~40.73m: 傾斜40~70°の割れ目や低密着割れ目が主体で、40.00m以下では傾斜10~20°のものも分布する。割れ目の一部は薄く砂状化するが、粘土部や粘土脈は殆んど分布しない。ただし、39.49~39.64mでは上端50°、下端60°の割れ目に囲まれ、風化で軟質化し、割れ目沿いに砂状化が進む部分もある。割れ目の一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。	
																																	Dg	Vg	δ		
			+	明褐灰			Cg	IVg	γ			0																									
																															Dg	Vg	δ				
																															Cg	IVg	γ				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位(m) 測定月日	(標準貫入)試験 (N値~深度) 図				原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブノット	給圧 (kN・rPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
														N	値	0	50																				
41				花崗斑岩	にぶい橙	IV _g	C _g	cg	γ	2	0	CL'																									
													V _g	E _g	VI _g	dg	3	1																			
						D _g	V _g	D _g	V _g	cg	δ		(1)																								
42						明褐灰	IV _g	C _g	bg	γ	2		10	D'																							
													(10)																								
43						橙	IV _g	C _g	cg																												
																																			13		
							V _g	D _g	V _g																												
44						にぶい橙	VI _g	E _g	dg	δ	3		2																								
													(2)																								
						D _g	V _g																														
						V _g	D _g	cg																													
						V _g	D _g	cg																													
						D _g	V _g	cg																													
						V _g	D _g	cg																													
						V _g	D _g	cg																													
						V _g	D _g	cg																													
						V _g	D _g	cg																													
						V _g	D _g	cg																													
						V _g	D _g	cg																													
						V _g	D _g	cg																													
						V _g	D _g	cg																													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	備考	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																																																																																																																																										
																		(N値~深度) 図																																																																																																																																																																																																																									
		46	花崗斑岩	明褐灰	Eg	Vg	Dg	cg	δ	4	2	45.09~45.82m: 風化で軟質化する。傾斜30~50°の割れ目が主体で、割れ目沿いに砂状化する。粘土脈は少ない。 45.54m: 傾斜55°で幅1~2mmの黄褐色粘土脈を挟む。 45.82~45.89m: 上端58°, 下端55°の直線的でシャープな割れ目に囲まれ、灰白~灰黄色粘土と径5~10mmの一部粘土化、一部硬さ「D」の花崗斑岩の岩片からなる粘土混じり岩片状の裂隙部。一部、マンガン汚染が顕著で幅2~15mmの岩片を25%程度含む。 45.89~47.47m: 風化により一部の割れ目は消滅、ないし、消滅しかかっている。残留する割れ目は傾斜60~70°が主体で、割れ目沿いに砂状化することが多い。粘土脈の分布は少ない。46.00~46.20m間では幅1mm前後の軟質な白色粘土が目立つが、粘土脈としての連続性はない。部分的に軽微なマンガン鉱染を受ける。	0	50	100	D'		0	10	20	30	40	50																																																																																																																																																																																																																				
	47	花崗斑岩																																				明褐灰	Eg	Vg	Dg	cg	δ	3	4	47.20m: 傾斜50°の割れ目は幅4~7mで径2mmの石英粒と軟質な白色粘土を挟む。 47.20m以深では、傾斜50°前後の割れ目や低密着割れ目が1~2cm間隔で分布し、その殆んどに幅0.5~2mmの軟質な白色粘土が付着する。 ●47.47~47.89m: 破砕部 (D-1破砕帯) 47.47~47.48m: 粘土状部 (Ho-1) 傾斜65°で直線的にシャープに連続。径1~2mmの石英粒を少量含む。軟質。灰褐色を呈する。幅3~6mm。 47.48~47.66m: 粘土質礫状部 (Ho) 上端65°で直線的にシャープに連続。下端は不明瞭で漸移的である。径2~3mmの石英粒と径5~10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。軟質。灰黄色を呈する。石英粒と岩片の多くはマンガン鉱染で黒褐色化する。幅67mm (68°)。	0	50	100	D'		0	10	20	30	40	50																																																																																																																																																																																		
	48																																																																						花崗斑岩	明褐灰	Eg	Vg	Dg	cg	δ	4	4	47.66~47.86m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端は不明瞭で漸移的に、下端63°で直線的にシャープに連続。径10~40mmの一部粘土化、一部硬さ「E」, ないし、「D」の岩片主体で、岩片間の基質は灰黄~灰白色に粘土化する。石英粒と岩片の一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。全体は灰黄~灰白色を呈する。幅90mm (63°)。	0	50	100	D'		0	10	20	30	40	50																																																																																																																																																
	49																																																																																																								花崗斑岩	明褐灰	Eg	Vg	Dg	cg	δ	2	4	47.86~47.89m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端63°, 下端60°とともに直線的にシャープに連続。径2~10mmの石英粒を多く含む。軟質。灰白色を呈する。幅15mm (60°)。	0	50	100	D'		0	10	20	30	40	50																																																																																																														
																																																																																																																																										花崗斑岩	明褐灰	Eg	Vg	Dg	cg	δ	2	4	47.89~48.30m: 風化で割れ目の一部は消滅、ないし、消滅しかかっているが、傾斜50~60°の割れ目と低密着割れ目が残留し、一部で砂状化~白色、ないし、淡黄色のやや硬質な粘土脈を挟む。また、弱くマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	0	50	100	D'		0	10	20	30	40	50																																																																													
																																																																																																																																																																											花崗斑岩	明褐灰	Eg	Vg	Dg	cg	δ	2	4	48.30~48.61m: 傾斜40°前後の割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する20~30°も分布し、両者が交差する48.40~48.45mでは径5~10mmの岩片に細片化する。割れ目沿いの砂状化は殆んどなく、粘土脈も分布しない。	0	50	100	D'		0	10	20	30	40	50																																												
																																																																																																																																																																																																												花崗斑岩	明褐灰	Eg	Vg	Dg	cg	δ	2	4	49.38~52.75m: 傾斜50~60°とこれらに斜交~直交する20~50°の割れ目が主体で、同傾斜の低密着割れ目も一部に分布する。	0	50	100	D'		0	10	20	30	40	50											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)										
													(N値~深度) 図																									
51			花崗斑岩		灰褐	Bg	bg	γ	2	0	CM'		0	10	20	30	40	50																				
																	50.63~50.66m: 割れ目沿いに径3~10mmに細片化するが、砂状部や粘土化部は伴わない。 50.73~50.85m: 傾斜50~60°の割れ目沿いがやや赤色を帯びる。																					
52																	51.38~51.42m: 傾斜50~60°の割れ目沿いにやや軟質化し、硬さ「C」となるが、粘土化や粘土脈は挟まない。 51.38mの割れ目沿いは砂状化する。																					
																	52.17m: 傾斜50~60°でやや波打つ割れ目沿いが幅1~3mmで緑泥石化により緑灰色化し、径0.5mm以下の微細な金属鉱物が晶出する。																					
53									52.75~53.58m: 傾斜30~60°の割れ目が主体で、割れ目に砂状化部や粘土化部~粘土脈は挟まない。一部、微細な割れ目が分布するが、密着度は高く、ハンマーの打撃では分離しない。 52.91m: 傾斜50°で幅2~4mmの石英脈が母岩に密着して連続する。一部、溶融部を伴う。																													
									53.58~54.00m: 傾斜20~60°の割れ目と一部で同方向の低密着割れ目も分布する。一部では、ハンマーの打撃で低密着割れ目沿いに分離、岩片化する。																													
	-27.68	54.00																																				